

第 2 章 大 氣 污 染 常 時 監 視 結 果

第 2 章 大気汚染常時監視結果

1 環境基準の達成状況

環境基本法第 16 条の規定により、「大気汚染に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、及び生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準」として環境基準が定められている。

大気汚染の状況を環境基準により評価する場合、環境庁通知で短期的評価と長期的評価の 2 通りの方法が示されている。

短期的評価とは、環境基準が 1 時間値又は 1 時間値の 1 日平均値として定められているものについて、測定を行った時間又は日について評価する方法であり、長期的評価については、年間にわたる測定結果を長期的に観察したうえで評価する方法である。

表 2 - 1 大気汚染に係る環境基準について

物質	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質
環境上の条件	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。	1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。	1 時間値が 0.06 ppm 以下であること。	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。
(評価方法) ① 短期的評価（二酸化窒素を除く。） 測定を行った日についての 1 時間値の 1 日平均値若しくは 8 時間平均値または各 1 時間値を環境基準と比較して評価を行う。 ② 長期的評価 ア 二酸化硫黄、一酸化炭素及び浮遊粒子状物質 1 年間の測定を通じて得られた 1 日平均値のうち、高いほうから数えて 2% の範囲にある測定値を除外した後の最高値（1 日平均値の年間 2% 除外値）を環境基準と比較して評価を行う。 ただし、上記の方法に関わらず環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合には非達成とする。 イ 二酸化窒素 1 年間の測定を通じて得られた 1 日平均値のうち、低いほうから数えて 98% 目に当たる値（1 日平均値の年間 98% 値）を環境基準と比較して評価を行う。					

平成 14 年度から平成 16 年度の 3 カ年における上記の環境基準達成状況を表 2 - 2 に示した。

なお、年間測定時間が 6,000 時間以上の測定局を有効測定局とし、これに該当しなかった測定局は、環境基準の長期的評価の対象としない（ただし、光化学オキシダントは、長期的評価の対象とならない。）。

表 2 - 2 環 境 基 準 達 成 状 況

測定局 種 別	市 町 名	項目 年 度 測定局	二酸化硫黄 (長期)			二酸化窒素 (長期)			一酸化炭素 (長期)			光化学オキシダント (短期)			浮遊粒子状物 (長期)				
			14 年 度	15 年 度	16 年 度	14 年 度	15 年 度	16 年 度	14 年 度	15 年 度	16 年 度	14 年 度	15 年 度	16 年 度	14 年 度	15 年 度	16 年 度		
			環 境 大 気 測 定 局	金 沢 市	三 馬														
西 南 部																			
小 立 野																			
中 央																			
駅 西																			
西 部																			
七 尾 市	七 尾																		
	大 田																		
	田 鶴 浜																		
	能 登 島																		
	石 崎																		
	崎 山																		
小 松 市	小 松																		
	加 賀 市	大 聖 寺																	
	山 代																		
	羽 咋 市	羽 咋																	
	白 山 市	山 島																	
		松 任																	
		美 川																	
	能 美 市	根 上																	
	津 幡 町	津 幡																	
	内 灘 町	内 灘																	
中 能 登 町		鳥 屋																	
自 動 車 排 出 局	金 沢 市	武 蔵																	
		片 町																	
		藤 江																	
		駅 前																	
	小 松 市	小 松																	
	野 々 市 町	野 々 市																	

(注) 記号は下記のとおりである。(ただし、光化学オキシダントは測定時間による区別はしない。)

○ : 環境基準達成

△ : " 非達成

□ : 二酸化窒素の環境基準 0.04ppm ~ 0.06ppm のゾ - ン内にあるもの

2 一般環境大気測定局における汚染状況

一般環境大気測定局の測定項目及び有効測定局数を表 2 - 3 に示す。
平成 16 年度は、すべての測定局が有効測定局であった。

表 2 - 3 一般環境大気測定局における項目別測定状況（平成 16 年度）

項 目	二酸化 硫 黄	二酸化 窒 素	一酸化 窒 素	一酸化 炭 素	オキシ ダント	浮遊粒子状 物 質	非メタン 炭化水素	メタン
測 定 市 町 数	10	10	10	1	10	10	3	3
測 定 局 数	24	26	26	1	22	24	3	3
有効測定局数	24	26	26	1	-	24	-	-

（注）有効測定局の扱いをしない項目については、「 - 」を記した。

以下に測定項目別の状況を示すが、前年度との比較を行う場合は、有効測定局を対象としている。

(1) 二酸化硫黄

二酸化硫黄による大気汚染は、石油、石炭等化石燃料に含まれる硫黄分の燃焼により発生するものが大部分である。

環境基準の長期的評価、短期的評価とも、すべての測定局で達成していた（表 2 - 4）。長期的評価による環境基準については、昭和 55 年度以降すべての測定局において達成している。

年平均値及び日平均値の 2 % 除外値の濃度分布を表 2 - 5、6 に全国の状況と対比して示したが、本県の二酸化硫黄の濃度は全国的にみて低位のレベルにある。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図 2 - 1 のとおり、すべての局で「横ばい」となっている。また、過去 5 年間の年平均値の経年変化は、図 2 - 2 のとおり、概ね横ばい、又は減少傾向で推移してきている。

参考までに工場、事業場における石油系燃料使用量の 1 つの目安として、日本石油連盟調べによる重油販売実績を図 2 - 3 に示す。

表 2 - 4 平成 16 年度二酸化硫黄濃度の測定結果

項 目	概 要
年 平 均 値	0.001ppm ~ 0.006ppm (山島、大田、 田鶴浜、能登島 鹿島、崎山、徳田)
日平均値の 2 % 除外値 (基準 0.04ppm)	0.002ppm ~ 0.011ppm (大田、能登島、 崎山、徳田)
1 時間値の環境基準(0.1ppm)を超えた局及び時間数	なし
日平均値の環境基準(0.04ppm)を超えた局及び日数	なし

表 2 - 5 二酸化硫黄濃度の年平均値の分布

項 目	濃度区分 (ppm)									合計
	0 }	0.0021 }	0.0041 }	0.0061 }	0.0081 }	0.0101 }	0.0121 }	0.0141 }	0.0161 以 上	
16 年度の石川県の 測定局数 (累積%)	12 (50.0)	11 (95.8)	1 (100.0)	0	0	0	0	0	0	24
15 年度の全国の測 定局数 (累積%)	358 (25.7)	567 (66.3)	371 (92.9)	75 (98.3)	19 (99.6)	4 (99.9)	1 (100.0)	0	0	1,395

表 2 - 6 二酸化硫黄濃度の日平均値の 2 % 除外値の分布

項 目	濃 度 区 分 (ppm)			合 計
	0 }	0.011 }	0.021 以 上	
測 定 局 数	0.010 23	0.020 1	0	24

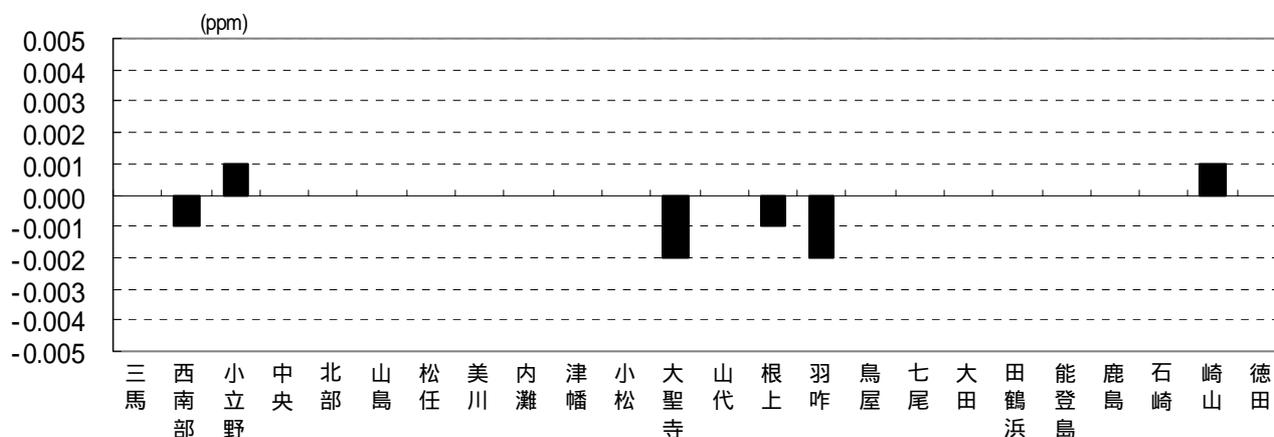


図 2 - 1 二酸化硫黄濃度の年平均値の増減状況 (前年度比較)

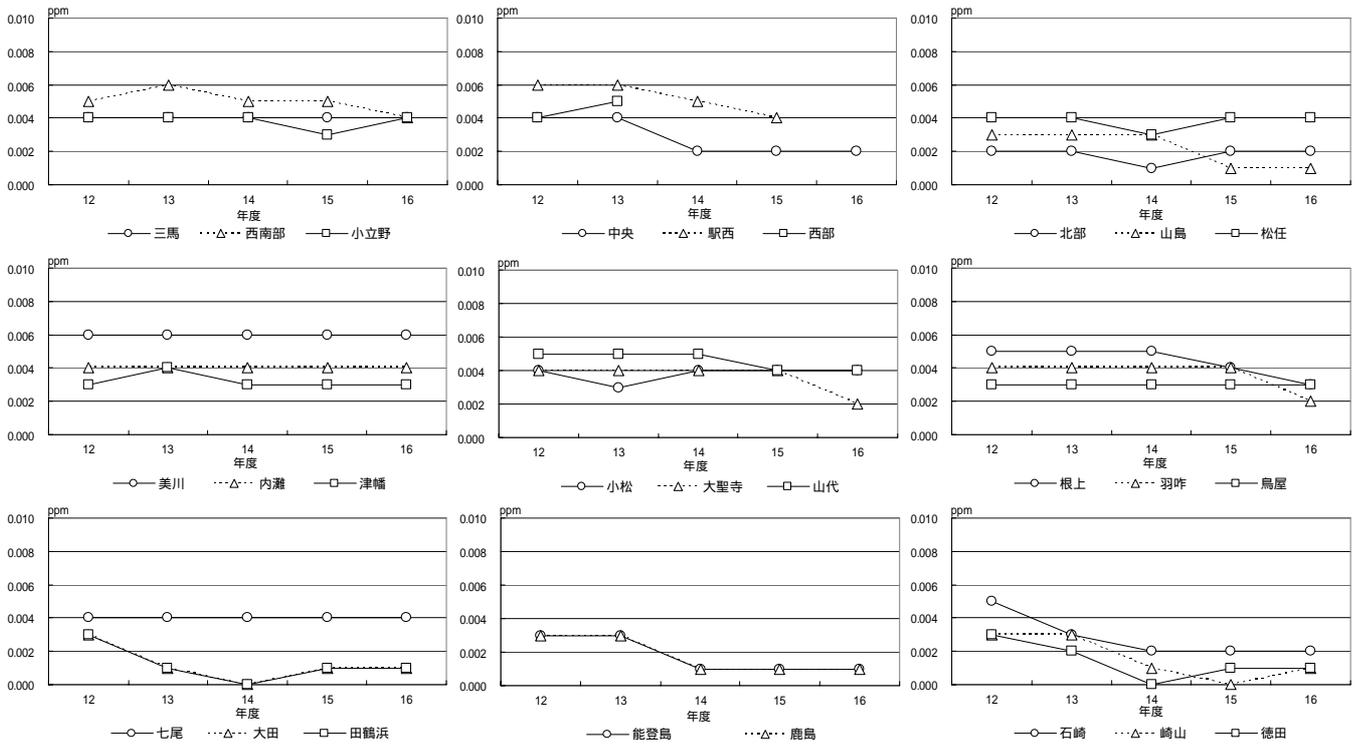


図 2 - 2 二酸化硫黄濃度の経年変化

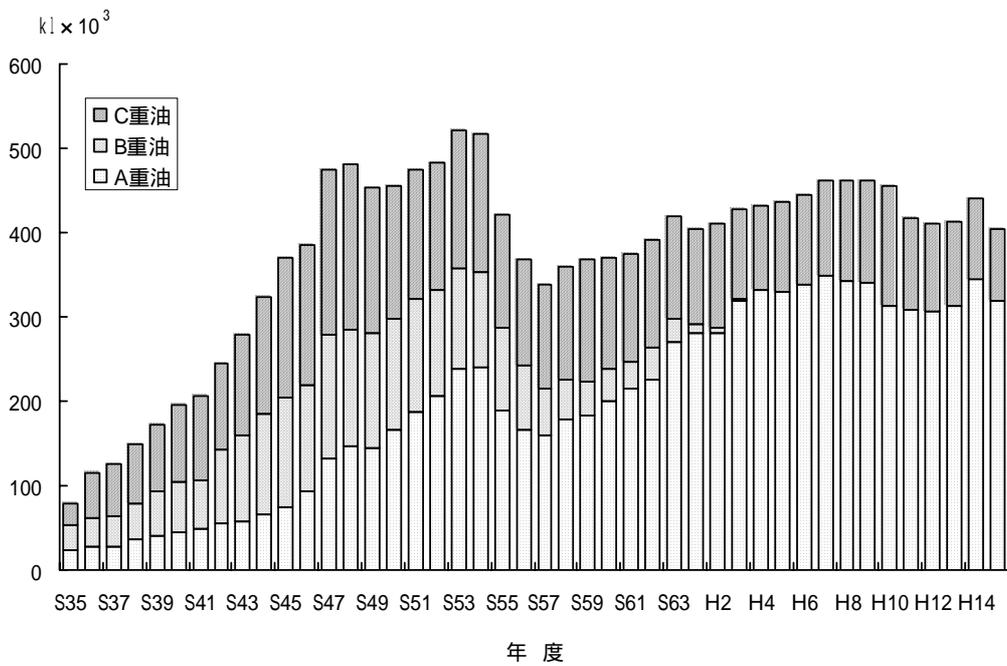


図 2 - 3 石川県における重油販売量の推移

(2) 窒素酸化物（二酸化窒素及び一酸化窒素）

二酸化窒素

大気中の窒素酸化物の大部分は、物の燃焼に伴い発生するもので、主な発生源としては自動車等の移動発生源と工場等の固定発生源があげられる。

環境基準の長期的評価（上限値 0.06ppm）については、表 2 - 7 で示すように、すべての測定局において達成している。なお、環境基準が改正された昭和 53 年度以降すべての測定局において達成している。

年平均値及び日平均値の年間 98% 値の濃度分布をそれぞれ表 2 - 8、9 に全国の状況と対比して示したが、本県の二酸化窒素濃度は、全国的にみて低位のレベルにあり、地域的にみると、金沢地域や小松・加賀地域に比べて七尾・羽咋地域が低い濃度にある。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図 2 - 4 のとおり、25 局で「横ばい」、1 局で「やや減少」となっている。また、過去 5 年間における年平均値の経年変化は、図 2 - 5 のとおり、概ね横ばい傾向で推移している。

表 2 - 7 平成 16 年度二酸化窒素濃度の測定結果

項 目	概 要
年 平 均 値	0.002ppm（能登島、崎山）～ 0.017ppm（西南部）
日平均値の年間 98% 値(基準 0.06ppm)	0.005ppm（崎山）～ 0.032ppm（西南部）
日平均値が環境基準のゾーン(0.04ppm～0.06ppm)の値を観測した局及び日数	な し
日平均値が環境基準の上限値(0.06ppm)を超えた値を観測した局及び日数	な し

表 2 - 8 二酸化窒素濃度の年平均値の分布

濃 度 区 分 (ppm) 項 目	0	0.006	0.011	0.016	0.021	0.026	0.031	0.036	0.041	0.046	合 計
	0.005	0.010	0.015	0.020	0.025	0.030	0.035	0.040	0.045	以 上	
16 年度石川県の測定局数（累積%）	7 (26.9)	7 (53.8)	10 (92.3)	2 (100.0)	0	0	0	0	0	0	26
15 年度全国の測定局数（累積%）	93 (6.4)	269 (24.9)	376 (50.8)	342 (74.3)	228 (90.0)	122 (98.3)	23 (99.9)	1 (100.0)	0	0	1,454

表 2 - 9 二酸化窒素濃度の日平均値の年間 98% 値の分布

濃度区分 (ppm)	0	0.011	0.021	0.031	0.041	0.051	0.061	0.071	合計
	0.010	0.020	0.030	0.040	0.050	0.060	0.070	0.080	
16 年度石川県の測定局数 (累積%)	5 (19.2)	8 (50.0)	12 (96.2)	1 (100.0)	0	0	0	0	26
15 年度全国の測定局数 (累積%)	65 (4.5)	187 (17.3)	422 (46.4)	433 (76.1)	282 (95.5)	64 (99.9)	1 (100.0)	0	1,454

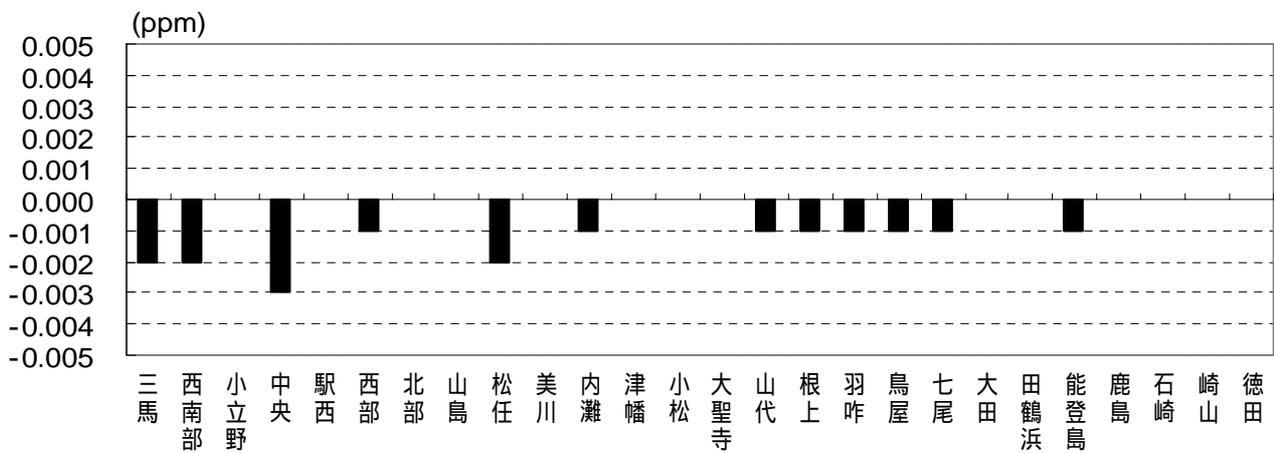


図 2 - 4 二酸化窒素濃度の年平均値の増減状況 (前年度比較)

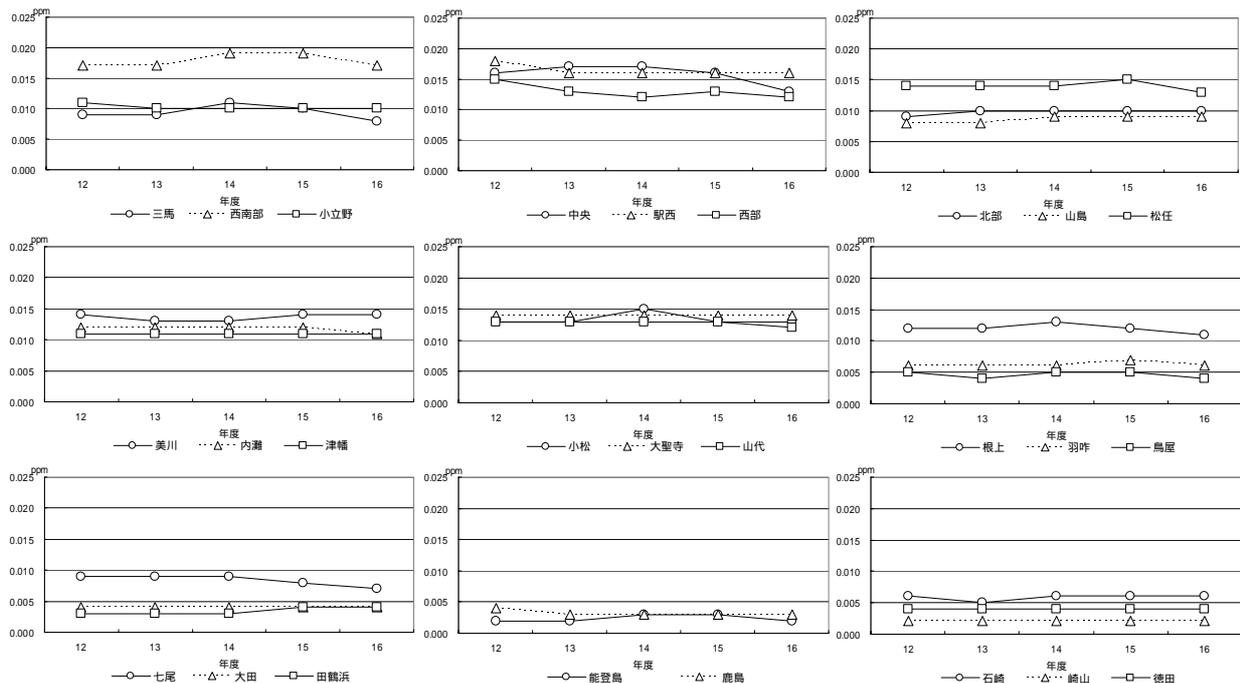


図 2 - 5 二酸化窒素濃度の経年変化 (年平均値)

一酸化窒素

年平均値及び日平均値の年間98%値の濃度分布をそれぞれ表2-10、11に全国の状況と対比して示したが、本県の一酸化窒素濃度は、全国的にみて低位のレベルにある。

この中で、大聖寺、七尾等沿道近郊にある測定局では図2-6のとおり、一酸化窒素の割合が高く、燃焼過程から発生する窒素酸化物のほとんどが一酸化窒素である自動車排出ガスの影響を強く受けているものと考えられる。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図2-7のとおり、すべて「横ばい」となっている。また、過去5年間の年平均値の経年変化は、図2-8のとおり、概ね横ばい傾向で推移している。

表2-10 一酸化窒素濃度の年平均値の分布

項目	濃度区分 (ppm)							合計
	0 } 0.010	0.011 } 0.020	0.021 } 0.030	0.031 } 0.040	0.041 } 0.050	0.051 } 0.060	0.061 } 以上	
16年度石川県の測定局数 (累積%)	26 (100.0)	0	0	0	0	0	0	26
15年度全国の測定局数 (累積%)	961 (66.1)	439 (96.3)	52 (99.9)	1 (99.9)	1 (100.0)	0	0	1,454

表2-11 一酸化窒素濃度の日平均値の年間98%値の分布

項目	濃度区分 (ppm)								合計
	0 } 0.010	0.011 } 0.020	0.021 } 0.030	0.031 } 0.040	0.041 } 0.050	0.051 } 0.060	0.061 } 0.070	0.071 } 以上	
測定局数 (累積%)	10 (38.5)	10 (76.9)	6 (100.0)	0	0	0	0	0	26

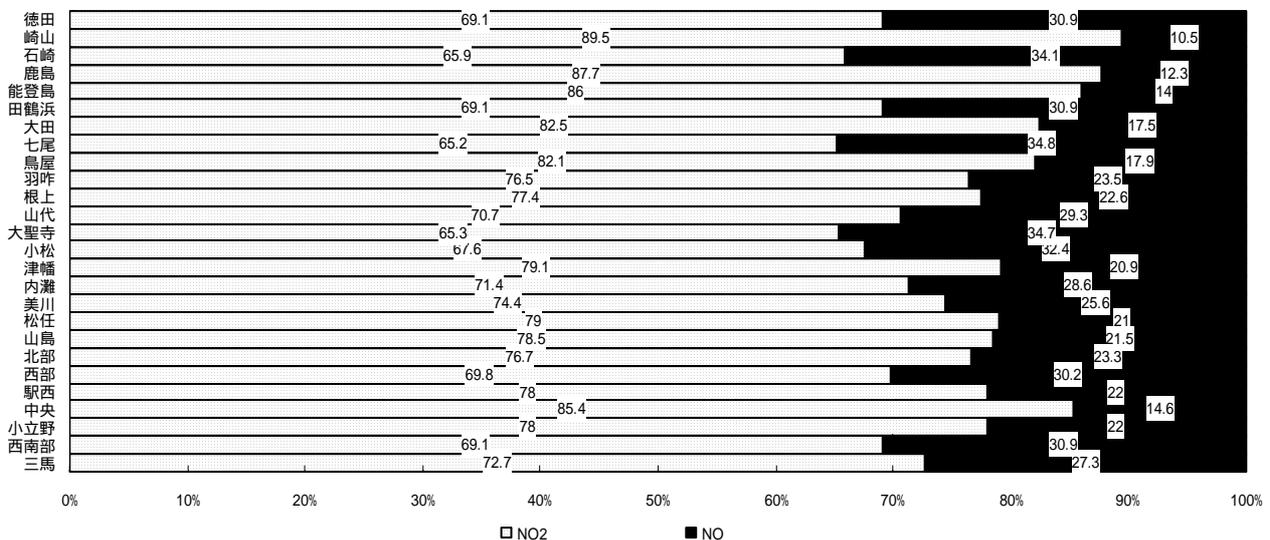


図2-6 一般環境大気測定局におけるNO₂とNOの比率(平成16年度)

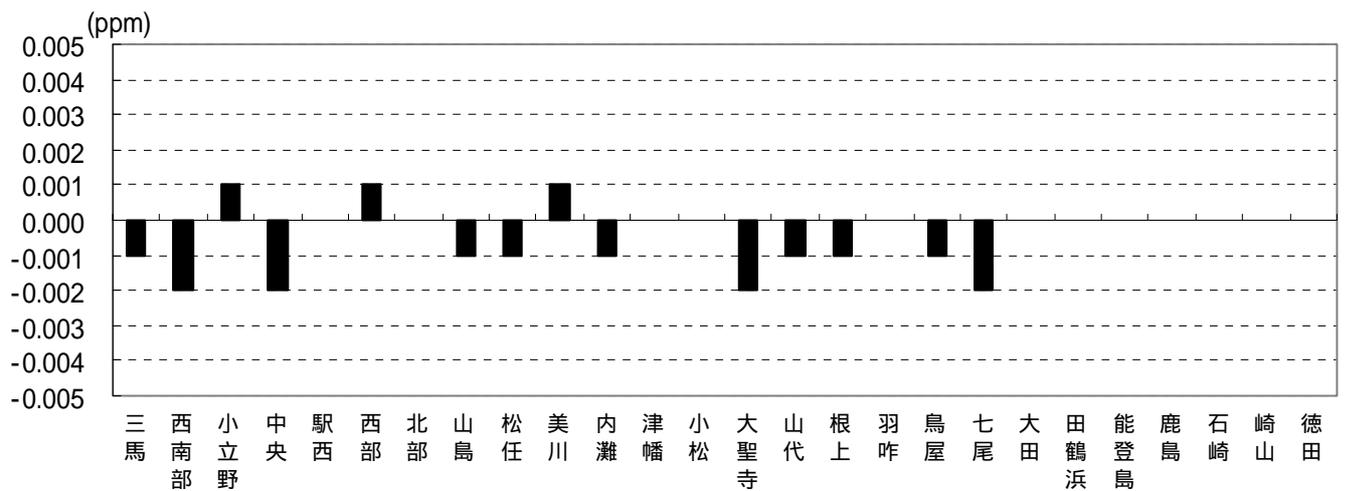


図 2-7 一酸化窒素濃度の年平均値の増減状況（前年度比較）

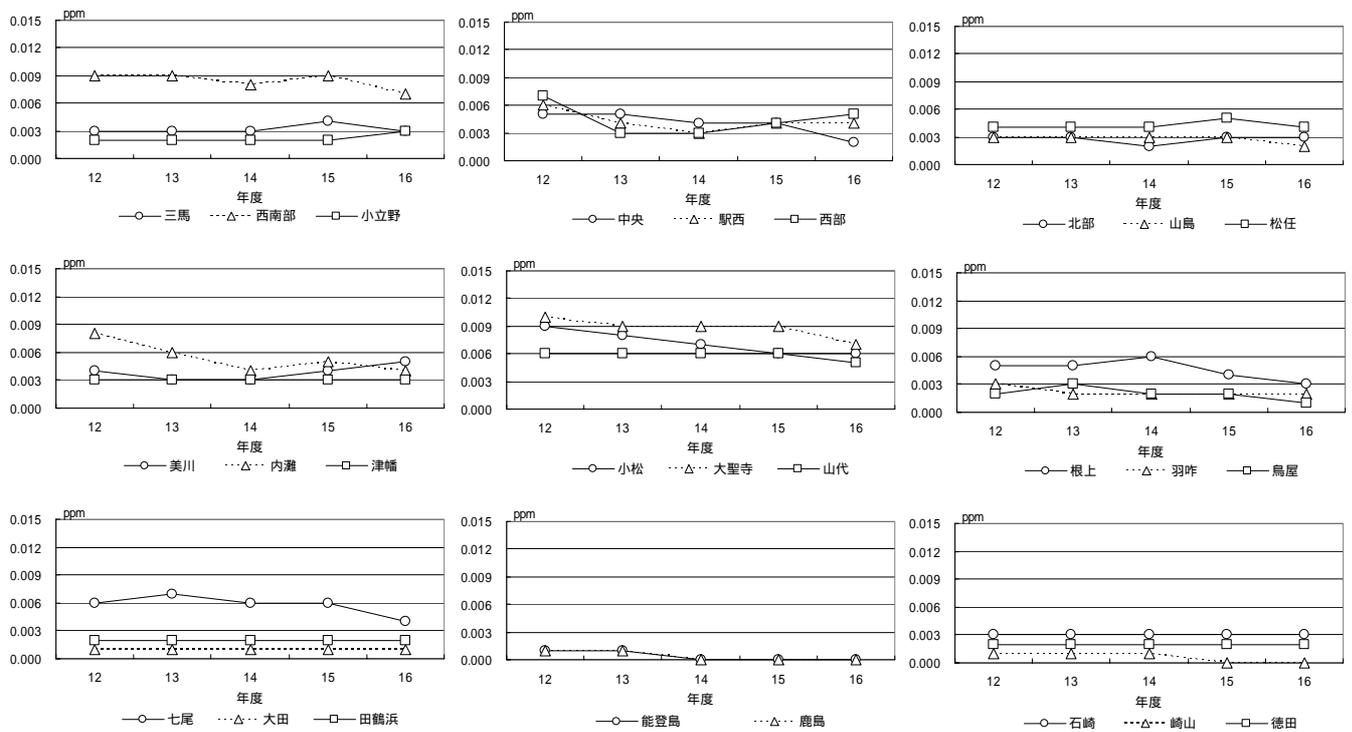


図 2-8 一酸化窒素濃度の経年変化（年平均値）

(3) 一酸化炭素

大気中の一酸化炭素は、その大部分が自動車排出ガスによるものである。

三馬測定局においては長期的評価及び短期的評価ともに達成していた（表 2 - 12）。三馬測定局では長期的評価及び短期的評価による環境基準については、昭和 46 年の測定開始から全て達成している。

表 2 - 12 平成 16 年度一酸化炭素濃度の測定結果

項 目	概 要
年 平 均 値	0.3 ppm
日平均値の 2 % 除外値(基準 10ppm)	0.5 ppm
1 時間値の 8 時間平均値の環境基準(20ppm)を超えた局と回数	な し
1 時間値の 1 日平均値の環境基準(10ppm)を超えた局と日数	な し

(4) 光化学オキシダント

光化学大気汚染は、一次汚染物質の窒素酸化物や炭化水素等が太陽光線により光化学反応を起こすことによって二次的に生成される汚染物質によるものであり、光化学オキシダント濃度を指標として測定することになっている。この濃度が高くなると、目への刺激、のどの痛み、胸苦しさを典型的な症状とする健康被害を引き起こす可能性がある。

本県では、大気汚染防止法第 23 条の緊急時の措置規定により、オキシダント緊急時対策実施要領を策定し、緊急時の発令基準（表 2 - 15）を定める等、緊急時の措置等必要な事項を規定している。本県では昭和 54 年 7 月 7 日および平成 14 年 5 月 22 日の 2 度発令した事例があり、平成 16 年 6 月 5 日鹿島測定局において午前 11 時に 0.120ppm となったので七尾地域に光化学スモッグ予報を発令した（11:30 発令、16:15 解除）。

光化学オキシダントの環境基準については、すべての測定局で達成しなかった。環境基準を超えた日数及び時間数は、それぞれ表 2 - 13、14 のとおりである。なお、本県で環境基準が達成されたのは、昭和 46 年の測定開始以来、昭和 57 年度の西南部及び津幡測定局のみである。

昼間（午前 5 時～午後 8 時）における光化学オキシダントの高濃度日（0.100ppm 以上）の出現状況は表 2 - 17 のとおり、15 日で、平成 15 年度と比べて増加している。

環境基準（1 時間値が 0.06ppm 以下）を超過した日数及び時間数を測定日数及び昼間の測定時間数でそれぞれ除した値（出現率）の過去 10 年間の経年変化は、図 2 - 9 のとおりである。

表2-13 昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数の分布

超過日数		1	11	21	31	41	51	61	71	81	91	101	
事項	0	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	計
		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	以上	
局数	0	0	1	3	0	2	5	0	4	2	2	3	22
割合(%)	0.0	0.0	4.5	13.6	0.0	9.1	22.7	0.0	18.2	9.1	9.1	13.6	100.0
累積(%)	0.0	0.0	4.5	18.2	18.2	27.3	50.0	50.0	68.2	77.3	86.4	100.0	

表2-14 昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数の分布

超過時間数		1	51	101	151	201	251	301	351	401	451	501	
事項	0	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	計
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	以上	
局数	0	0	1	3	0	0	3	5	1	1	1	7	22
割合(%)	0.0	0.0	4.5	13.6	0.0	0.0	13.6	22.7	4.5	4.5	4.5	31.8	100.0
累積(%)	0.0	0.0	4.5	18.2	18.2	18.2	31.8	54.5	59.1	63.6	68.2	100.0	

表2-15 石川県オキシダント緊急時対策発令基準

区分	発令基準	解除基準
予報	気象条件及びオキシダント濃度の測定値等を検討し、下欄に掲げる注意報の状態が生ずるおそれがあると認められるとき。	左欄に掲げる状態がなくなったと認められるとき。
注意報	1以上の基準測定局のオキシダント濃度の1時間値が0.12ppm以上になり、気象条件からみて、その濃度が継続すると認められるとき。	発令地域内のすべての基準測定局において、オキシダント濃度の1時間値が左欄に掲げる各区分別の基準値を下まわり、なお気象条件からみて、その状態が悪化するおそれがなくなったと認められるとき。
緊急報	1以上の基準測定局のオキシダント濃度の1時間値が0.20ppm以上になり、気象条件からみて、その濃度が継続すると認められるとき。	
重大緊急報	1以上の基準測定局のオキシダント濃度の1時間値が0.40ppm以上になり、気象条件からみて、その濃度が継続すると認められるとき。	

表2-16 平成16年度光化学オキシダント濃度の測定結果

項目	概要
昼間の1時間値の最高値(基準0.06ppm)	0.080ppm(小立野) ~ 0.120ppm(鹿島)
昼間の日最高1時間値の年平均値	0.037ppm(西南部、小立野) ~ 0.057ppm(鹿島)

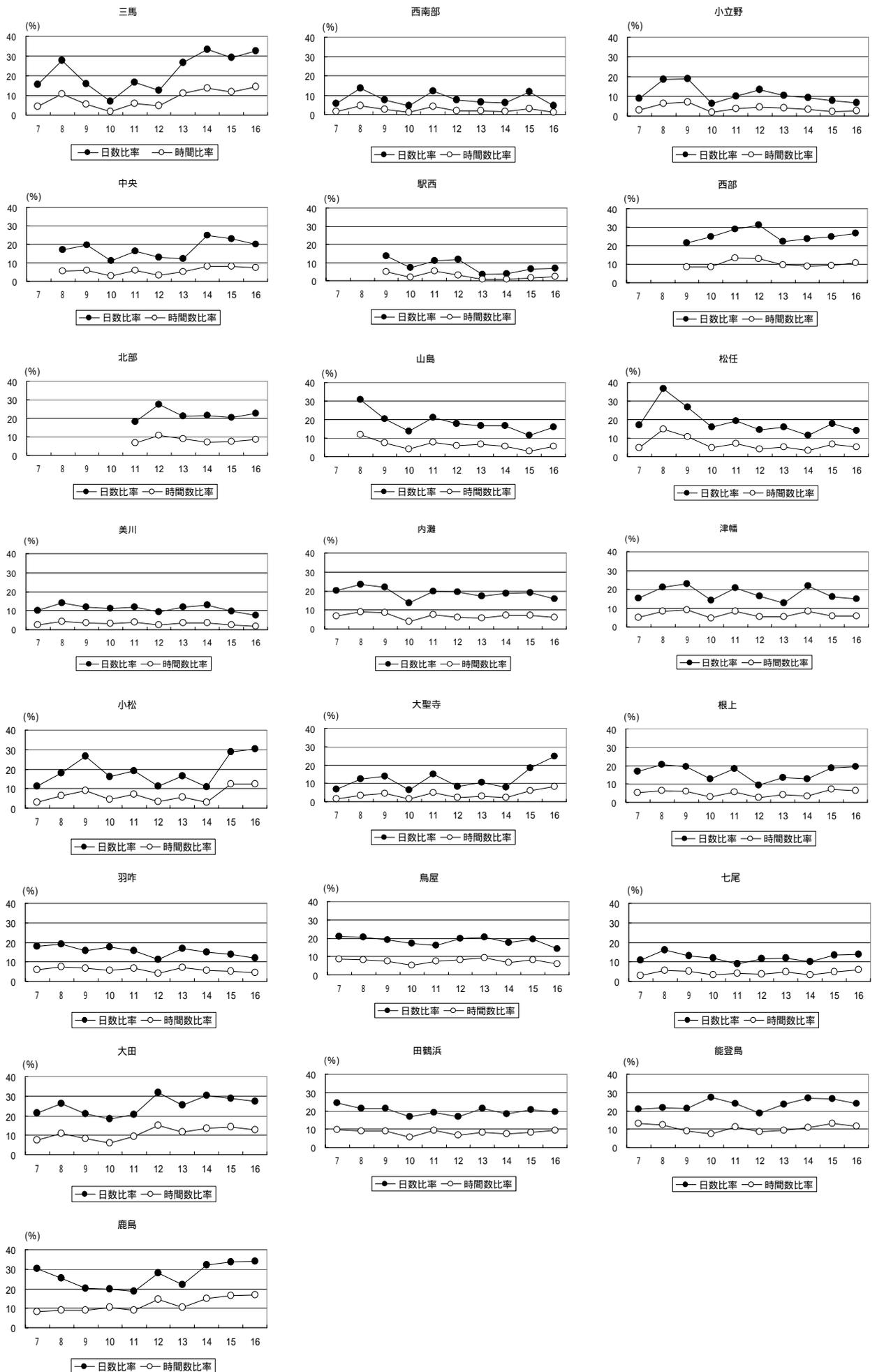


図 2 - 9 光化学オキシダントの環境基準超過日数及び時間数

(5) 浮遊粒子状物質

大気中に浮遊する粒子状物質のうち粒径 $10\mu\text{m}$ 以下のものは、沈降速度が小さく、大気中に比較的長時間滞留し、人の気道又は肺胞に沈着して呼吸器に影響があるため浮遊粒子状物質として監視を行っている。

環境基準の長期的評価については、全局において環境基準を達成した。

また、短期的評価については、1時間値の環境基準 ($0.20\text{mg}/\text{m}^3$) を超える値が鹿島測定局など6局で出現した(表2-18)。1時間値の環境基準超過時間は14時間で、平成15年度の7時間より増加したが、黄砂により長期的評価の達成状況の悪化した平成14年度の230時間を大幅に下回った。

年平均値及び日平均値の2%除外値の濃度分布をそれぞれ表2-19、20に全国の状況と対比して示したが、本県の浮遊粒子状物質濃度は全国的にみて低位のレベルにある。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図2-10のとおり、すべての局で「横ばい」となっている。また、過去5年間の年平均値の経年変化は、図2-11のとおり、平成12年度から13年度にかけて増加傾向にあったが、平成14年度以降それ以前の状況に戻り横ばい傾向である。

表2-18 平成16年度浮遊粒子状物質濃度の測定結果

項 目	概 要
年 平 均 値	$0.015\text{ mg}/\text{m}^3$ (山島) ~ $0.023\text{ mg}/\text{m}^3$ (七尾)
日平均値の2%除外値(基準 $0.1\text{mg}/\text{m}^3$)	$0.041\text{ mg}/\text{m}^3$ (山島) ~ $0.062\text{ mg}/\text{m}^3$ (石崎)
1時間値の環境基準($0.20\text{mg}/\text{m}^3$)を超えた局と時間数	内灘(1)、津幡(1)、大聖寺(4)、根上(1)、鹿島(5)、石崎(2)
日平均値の環境基準($0.10\text{mg}/\text{m}^3$)を超えた局と日数	石崎(1)

表2-19 浮遊粒子状物質濃度の年平均値の分布

項 目	濃 度 区 分 (mg/m^3)									合 計
	0.010 以下	0.011 0.020	0.021 0.030	0.031 0.040	0.041 0.050	0.051 0.060	0.061 0.070	0.071 以上		
16年度石川県の測定局数 (累積%)	0 (0.0)	21 (87.5)	3 (100.0)	0	0	0	0	0	0	24
15年度全国の測定局数 (累積%)	3 (0.2)	283 (18.8)	814 (72.4)	386 (97.8)	34 (100.0)	0	0	0	0	1,520

表2-20 浮遊粒子状物質濃度の日平均値の2%除外値の分布

項 目	濃 度 区 分 (mg/m^3)										合 計
	0.020 以下	0.021 0.040	0.041 0.060	0.061 0.080	0.081 0.100	0.101 0.120	0.121 0.140	0.141 0.160	0.161 0.180	0.181 以上	
16年度石川県の測定局数 (累積%)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (95.8)	1 (100.0)	0	0	0	0	0	0	24
15年度全国の測定局数 (累積%)	1 (0.1)	79 (5.3)	679 (49.9)	580 (88.1)	171 (99.3)	10 (100.0)	0	0	0	0	1,520

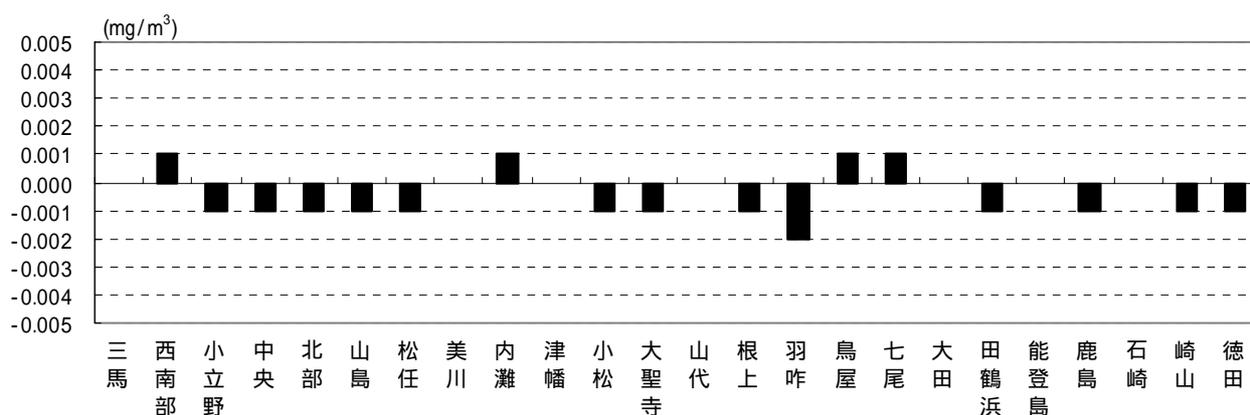


図 2-10 浮遊粒子状物質濃度の年平均値の増減状況(前年度比較)

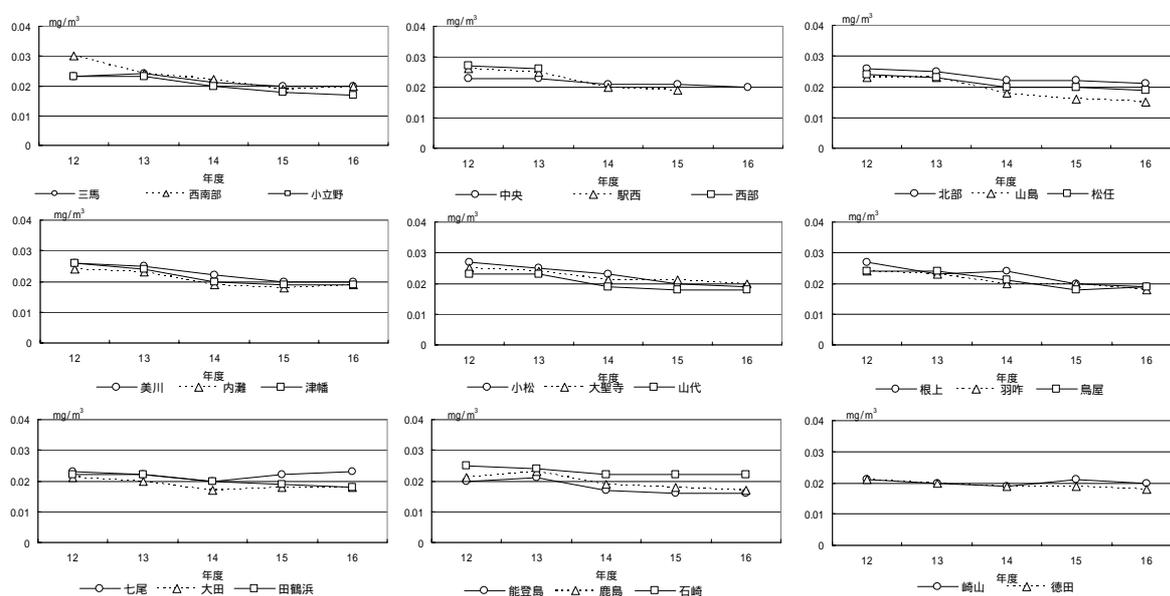


図 2-11 浮遊粒子状物質濃度の経年変化(年平均値)

(6) 炭化水素(非メタン炭化水素及びメタン)

炭化水素は、主として自然界を発生由来とするメタンと人為汚染により排出される非メタン炭化水素に大別され、光化学大気汚染の主要な原因物質の一つとして注目されている。

環境基準は定められていないが、昭和 51 年、中央公害対策審議会答申「光化学オキシダントの生成防止のための大気中の炭化水素濃度の指針について」において「光化学反応性を無視できるメタンを除いた非メタン炭化水素について、光化学オキシダントの日最高 1 時間値 0.06ppm に対応する午前 6 時から 9 時までの 3 時間平均値は、0.20ppmC から 0.31ppmC (炭素原子数を基準として表した ppm 値) の範囲を指針値とする。」とされている。

過去 5 年間における経年変化は、図 2-12、13 のとおり、横ばいで推移している。

表 2-21 平成 16 年度非メタン炭化水素濃度の測定結果

項目 \ 測定局	三馬測定局	内灘測定局	大田測定局
年平均値	0.11ppmC	0.09ppmC	0.06ppmC
指針値の下限値(0.20ppmC)を超えた日数の割合	6.1%	12.1%	0.3%
指針値の上限値(0.31ppmC)を超えた日数の割合	1.4%	1.9%	0.0%

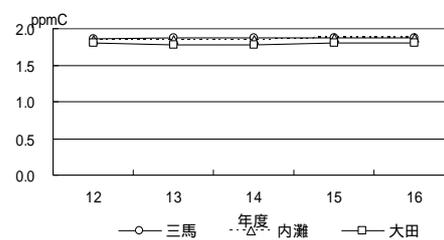
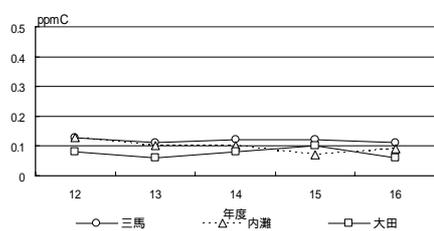


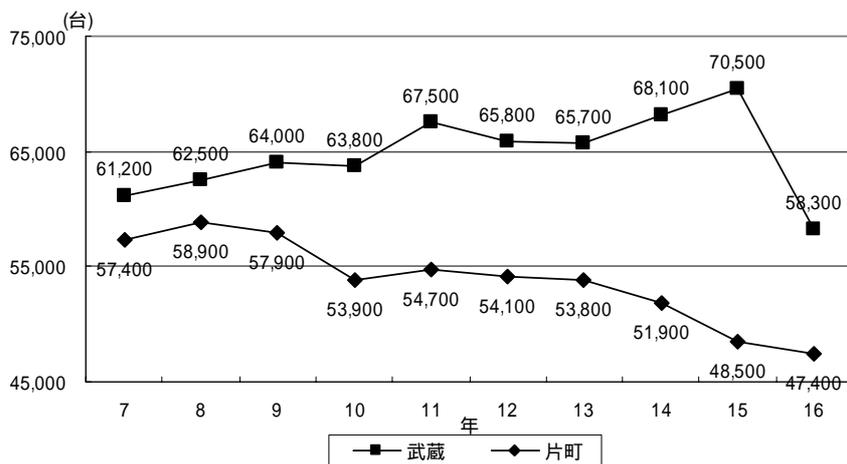
図 2-12 非メタン炭化水素濃度の経年変化 (年平均値) 図 2-13 メタン濃度の経年変化 (年平均値)

3 自動車排出ガス測定局における汚染状況

自動車排出ガスによる大気汚染は、交通量の増減に大きく左右されるため、参考までに金沢市内の主要な交差点の交通量の推移を図2-14に示す。

本県の自動車排出ガス測定局の測定状況を表2-22に示す。

平成16年度は、すべての測定局が有効測定局であった。



- 注) 1. この図は県警交通部がまとめた資料をグラフ化したものであり、台数は県警交通部設置の車両感知器により感知された車の1日あたりの平均台数である。
 2. この図の値は、年値(1月～12月)であり、大気汚染物質濃度の年度値(4月～翌年3月)とは3カ月のずれがある。
 3. 武蔵交差点は、平成9年度から、駅前中央通り線の感知台数を加えている。

図2-14 金沢市内主要交差点の全方向流入交通量推移

表2-22 自動車排出ガス測定局における項目別測定状況

項目	二酸化窒素	一酸化窒素	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	非メタン炭化水素	メタン
測定市町数	1	1	3	1	1	1
測定局数	4	4	6	3	1	1
有効測定局数	4	4	6	3	—	—

(注) 有効測定局の扱いをしない項目については、「—」を記した。

(1) 窒素酸化物(二酸化窒素及び一酸化窒素)

① 二酸化窒素

平成16年度の長期的評価(上限値0.06ppm)については、平成10年に武蔵測定局で非達成となっており、以来片町測定局で非達成となった(表2-23、24)。

年平均値及び日平均値の年間98%値の濃度分布をそれぞれ表2-25、26に全国の状況と対比して示したが、本県の二酸化窒素濃度は全国的にみて中位のレベルにある。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図2-15のとおり、「やや増加」が1局、「横ばい」が2局、「減少」が1局となっている。また、過去5年間における年平均値の経年変化は、図2-16のとおり、概ね横ばいの状況で推移していたが近年やや増加の傾向も見られる。

表 2-23 平成 16 年度二酸化窒素濃度の測定結果

項 目	概 要
年 平 均 値	0.025ppm(駅前) ~ 0.041ppm(片町)
日平均値の年間 98%値 (基準 0.06ppm)	0.037ppm(駅前) ~ 0.063ppm(片町)
日平均値が環境基準のゾーン(0.04ppm~0.06ppm)の値を観測した局及び日数	片町(191)、武蔵(68)、藤江(14)、駅前(1)
日平均値が環境基準の上限値(0.06ppm)を超えた値を観測した局及び日数	片町(13)

表 2-24 二酸化窒素の長期的評価による環境基準適合状況

年 度	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
測 定 局 数	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4
適 合 局 数	6 (5)	3 (3)	3 (3)	2 (2)	3 (3)	4 (4)	4 (3)	4 (3)	4 (3)	3 (2)
適 合 率 (%)	100	75	75	50	75	100	100	100	100	75

(注) () 内の数値は、環境基準のゾーン内の測定局数を示す。

表 2-25 二酸化窒素濃度の年平均値の分布

濃 度 区 分 (ppm) 項目	0	0.006	0.011	0.016	0.021	0.026	0.031	0.036	0.041	0.046	合 計
	0.005	0.010	0.015	0.020	0.025	0.030	0.035	0.040	0.045	以 上	
16 年度石川県の 測定局数(累積%)	0	0	0	0	1 (25.0)	1 (50.0)	1 (75.0)	0 (75.0)	1 (100.0)	0	4
15 年度全国の 測定局数(累積%)	0	2 (0.5)	17 (4.5)	59 (18.3)	74 (35.7)	89 (56.6)	99 (79.8)	53 (92.3)	22 (97.4)	11 (100.0)	426

表 2-26 二酸化窒素濃度の日平均値の年間 98%値の分布

濃 度 区 分 (ppm) 項目	0	0.011	0.021	0.031	0.041	0.051	0.061	0.071	0.081	0.091	合 計
	0.010	0.020	0.030	0.040	0.050	0.060	0.070	0.080	0.090	以 上	
16 年度石川県の 測定局数(累積%)	0	0	0	1 (25.0)	2 (75.0)	0 (75.0)	1 (100.0)	0	0	0	4
15 年度全国の 測定局数(累積%)	0	1 (0.2)	29 (7.0)	96 (29.6)	133 (60.8)	106 (85.7)	50 (97.4)	11 (100.0)	0	0	426

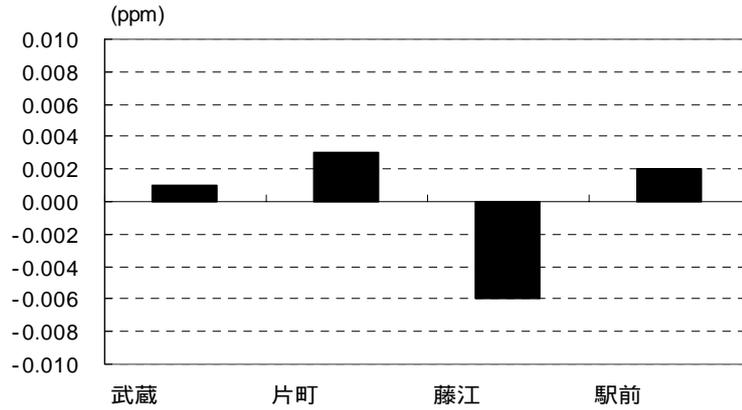


図 2-15 二酸化窒素濃度の年平均値の増減状況(前年度比較)

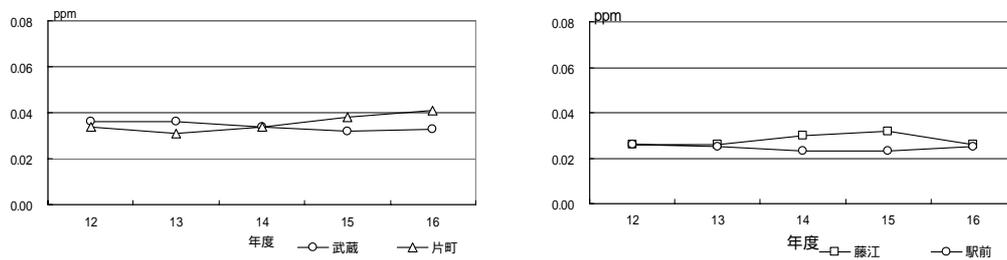


図 2-16 二酸化窒素濃度の経年変化(年平均値)

② 一酸化窒素

年平均値及び日平均値の年間 98%値の濃度分布は、表 2-27、28 のとおりである。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図 2-17 のとおりであり、「増加」が 1 局、「やや増加」が 1 局、「横ばい」が 1 局、「減少」が 1 局であった。また、過去 5 年間の年平均値の経年変化は、図 2-18 のとおりである。

表 2-27 一酸化窒素濃度の年平均値の分布

濃度区分 (ppm)	0	0.006	0.011	0.016	0.021	0.026	0.030	0.036	0.040	0.046	0.051	合計
項目	0.005	0.010	0.015	0.020	0.025	0.030	0.035	0.040	0.046	0.050	以上	
測定局数	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	4

表 2-28 一酸化窒素濃度の日平均値の年間 98%値の分布

濃度区分 (ppm)	0	0.011	0.021	0.031	0.041	0.051	0.061	0.071	0.081	0.091	0.101	合計
項目	0.010	0.020	0.030	0.040	0.050	0.060	0.070	0.080	0.090	0.100	以上	
測定局数	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	4

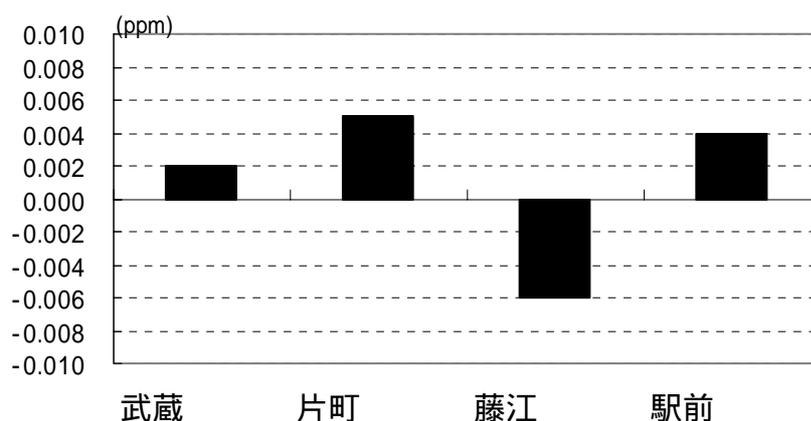


図 2-17 一酸化窒素濃度の年平均値の増減状況（前年度比較）

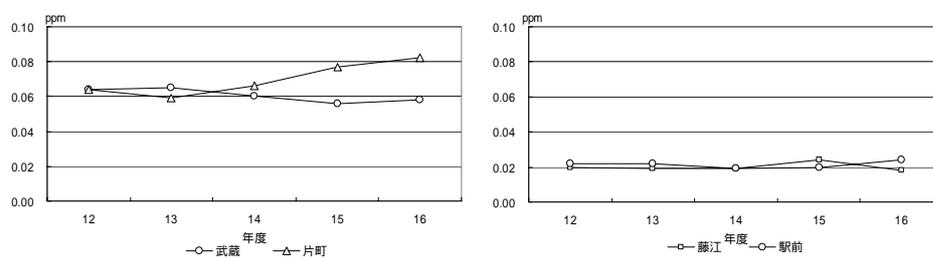


図 2-18 一酸化窒素濃度の経年変化（年平均値）

(2) 一酸化炭素

長期的評価及び短期的評価ともにすべての測定局で達成していた（表 2-29）。これにより、長期的評価による環境基準については昭和 52 年の測定開始から、短期的評価については平成元年度から、測定したすべての測定局において達成している。

年平均値及び日平均値の 2%除外値の濃度分布は、それぞれ表 2-30、31 のとおりである。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図 2-19 のとおり、「横ばい」が 5 局、「やや減少」が 1 局であった。

また、過去 5 年間の年平均値の経年変化は、図 2-20 のとおり、横ばい若しくは減少傾向で推移している。

表 2-29 平成 16 年度一酸化炭素濃度の測定結果

項 目	概 要
年 平 均 値	0.4 ppm(小松) ~ 1.4 ppm(片町)
日平均値の 2%除外値 (基準 10ppm)	0.7 ppm(小松) ~ 2.1 ppm(片町)
1 時間値の 8 時間平均値の環境基準(20ppm)を超えた局と回数	な し
1 時間値の 1 日平均値の環境基準(10ppm)を超えた局と日数	な し

表 2-30 一酸化炭素濃度の年平均値の分布

項目	濃度区分 (ppm)										合計
	0 0.5	0.6 1.0	1.1 1.5	1.6 2.0	2.1 2.5	2.6 3.0	3.1 3.5	3.6 4.0	4.1 4.5	4.6 以上	
測定局数	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	6

表 2-31 一酸化炭素濃度の日平均値の2%除外値の分布

項目	濃度区分 (ppm)										合計
	0 1.0	1.1 2.0	2.1 3.0	3.1 4.0	4.1 5.0	5.1 6.0	6.1 7.0	7.1 8.0	8.1 9.0	9.1 以上	
測定局数	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6

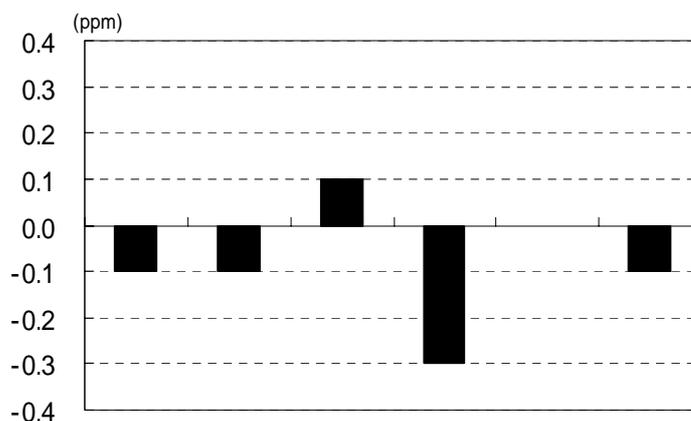


図 2-19 一酸化炭素濃度の年平均値の増減状況 (前年度比較)

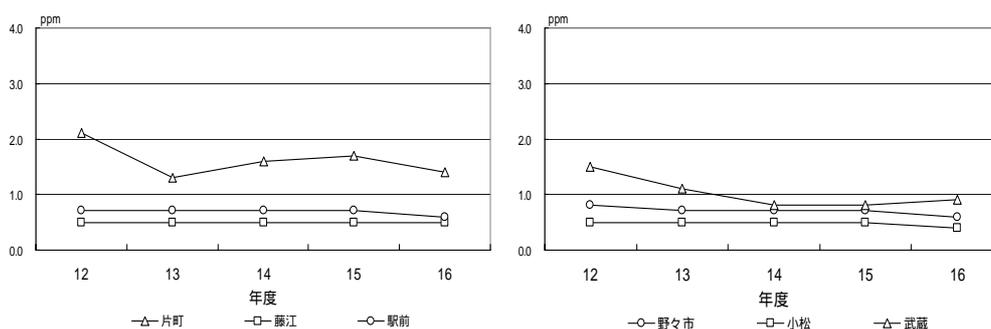


図 2-20 一酸化炭素濃度の経年変化 (年平均値)

(3) 浮遊粒子状物質

長期的評価についてはいずれの測定局も環境基準を達成した。

また、短期的評価は測定局で日平均値の環境基準（ $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ ）を超える値が出現した（表 2-32）。

過去 5 年間の年平均値の経年変化は、図 2-21 のとおりである。

表 2-32 平成 16 年度浮遊粒子状物質濃度の測定結果

項目	概要
年平均値	$0.023\text{ mg}/\text{m}^3$ (藤江)～ $0.025\text{ mg}/\text{m}^3$ (駅前)
日平均値の 2%除外値 (基準 $0.1\text{mg}/\text{m}^3$)	$0.052\text{ mg}/\text{m}^3$ (武蔵、藤江)、 $0.063\text{ mg}/\text{m}^3$ (駅前)
1 時間値の環境基準 ($0.20\text{mg}/\text{m}^3$) を超えた時間数	なし
日平均値の環境基準 ($0.10\text{mg}/\text{m}^3$) を超えた日数	駅前(1)

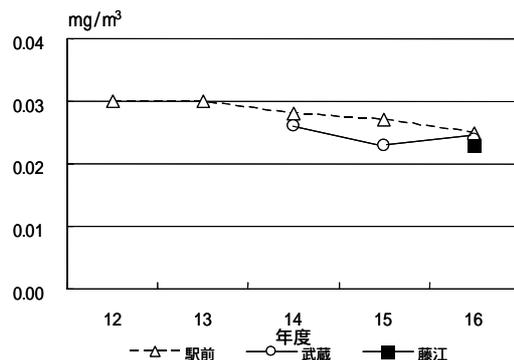


図 2-21 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（前年度比較）

(4) 炭化水素（非メタン炭化水素及びメタン）

非メタン炭化水素とメタンの年平均値は、武蔵測定局で各々 0.58ppmC 、 2.01 ppmC であった。

過去 5 年間の経年変化は、図 2-22、23 のとおり、横ばいで推移している。

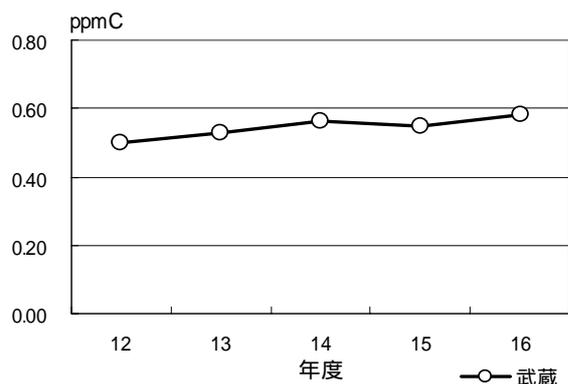


図 2-22 非メタン炭化水素濃度の経年変化

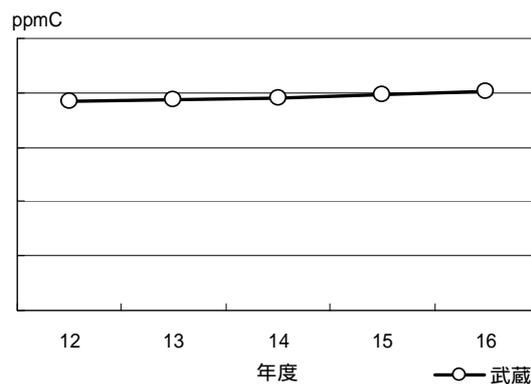


図 2-23 メタン濃度の経年変化

4 測定結果
環境大気測定局年間測定結果
(1) 二酸化硫黄

市 町	測定局	令別表第3の区分	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数
							(時間)	(%)	(日)	(%)				
金沢市	三馬	39-	住	365	8708	0.004	0	0	0	0	0.017	0.008		0
金沢市	西南部	39-	住	364	8728	0.004	0	0	0	0	0.034	0.008		0
金沢市	小立野	39-	住	365	8741	0.004	0	0	0	0	0.024	0.007		0
金沢市	中央	39-	住	365	8687	0.002	0	0	0	0	0.015	0.004		0
金沢市	北部	39-	住	364	8689	0.002	0	0	0	0	0.028	0.005		0
白山市	山島	39-	未	365	8679	0.001	0	0	0	0	0.011	0.003		0
白山市	松任	39-	住	365	8710	0.004	0	0	0	0	0.016	0.007		0
白山市	美川	39-	未	365	8712	0.006	0	0	0	0	0.080	0.011		0
内灘町	内灘	100-	住	361	8680	0.004	0	0	0	0	0.015	0.006		0
津幡町	津幡	100-	住	365	8714	0.003	0	0	0	0	0.010	0.005		0
小松市	小松	100-	準工	364	8708	0.004	0	0	0	0	0.023	0.007		0
加賀市	大聖寺	100-	住	292	6981	0.002	0	0	0	0	0.048	0.006		0
加賀市	山代	100-	住	361	8680	0.004	0	0	0	0	0.016	0.007		0
能美市	根上	100-	住	365	8686	0.003	0	0	0	0	0.071	0.008		0
羽咋市	羽咋	100-	商	365	8681	0.002	0	0	0	0	0.020	0.007		0
中能登町	鳥屋	100-	未	353	8604	0.003	0	0	0	0	0.090	0.006		0
七尾市	七尾	100-	住	363	8687	0.004	0	0	0	0	0.035	0.007		0
七尾市	大田	100-	未	365	8679	0.001	0	0	0	0	0.012	0.002		0
七尾市	田鶴浜	100-	未	361	8608	0.001	0	0	0	0	0.019	0.003		0
七尾市	能登島	100-	未	364	8677	0.001	0	0	0	0	0.010	0.002		0
中能登町	鹿島	100-	未	365	8673	0.001	0	0	0	0	0.013	0.003		0
七尾市	石崎	100-	住	365	8679	0.002	0	0	0	0	0.081	0.009		0
七尾市	崎山	100-	未	365	8686	0.001	0	0	0	0	0.012	0.002		0
七尾市	徳田	100-	未	361	8600	0.001	0	0	0	0	0.012	0.002		0

(注) 「環境基準の長期的評価による日平均値0.04ppmを超えた日数」とは日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち0.04ppmを超えた日数である。ただし、日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外当日に入っている日数分については除外しない。

(2) 二酸化窒素

市 町	測定局	令別表第3の区分	用途地域	二酸化窒素 (NO ₂)													
				有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.2ppmを超えた時間数とその割合		1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の時間数とその割合		日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数
								(時間)	(%)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)		
金沢市	三馬	39-	住	364	8708	0.008	0.051	0	0	0	0	0	0	0	0	0.018	0
金沢市	西南部	39-	住	365	8746	0.017	0.073	0	0	0	0	0	0	0	0	0.032	0
金沢市	小立野	39-	住	363	8676	0.010	0.069	0	0	0	0	0	0	0	0	0.021	0
金沢市	中央	39-	住	364	8677	0.013	0.059	0	0	0	0	0	0	0	0	0.025	0
金沢市	駅西	39-	住	365	8700	0.016	0.058	0	0	0	0	0	0	0	0	0.029	0
金沢市	西部	39-	住	365	8697	0.012	0.061	0	0	0	0	0	0	0	0	0.029	0
金沢市	北部	39-	住	363	8685	0.010	0.056	0	0	0	0	0	0	0	0	0.020	0
白山市	山島	39-	未	361	8640	0.009	0.072	0	0	0	0	0	0	0	0	0.018	0
白山市	松任	39-	住	365	8673	0.013	0.062	0	0	0	0	0	0	0	0	0.026	0
白山市	美川	39-	未	365	8673	0.014	0.068	0	0	0	0	0	0	0	0	0.026	0
内灘町	内灘	100-	住	361	8670	0.011	0.062	0	0	0	0	0	0	0	0	0.027	0
津幡町	津幡	100-	住	362	8624	0.011	0.059	0	0	0	0	0	0	0	0	0.022	0
小松市	小松	100-	準工	364	8709	0.013	0.066	0	0	0	0	0	0	0	0	0.027	0
加賀市	大聖寺	100-	住	291	6947	0.014	0.049	0	0	0	0	0	0	0	0	0.023	0
加賀市	山代	100-	住	361	8643	0.012	0.067	0	0	0	0	0	0	0	0	0.021	0
能美市	根上	100-	住	365	8675	0.011	0.060	0	0	0	0	0	0	0	0	0.023	0
羽咋市	羽咋	100-	商	358	8604	0.006	0.044	0	0	0	0	0	0	0	0	0.013	0
中能登町	鳥屋	100-	未	349	8499	0.004	0.035	0	0	0	0	0	0	0	0	0.011	0
七尾市	七尾	100-	住	361	8652	0.007	0.041	0	0	0	0	0	0	0	0	0.016	0
七尾市	大田	100-	未	361	8631	0.004	0.048	0	0	0	0	0	0	0	0	0.009	0
七尾市	田鶴浜	100-	未	363	8668	0.004	0.038	0	0	0	0	0	0	0	0	0.010	0
七尾市	能登島	100-	未	364	8676	0.002	0.017	0	0	0	0	0	0	0	0	0.006	0
中能登町	鹿島	100-	未	364	8671	0.003	0.030	0	0	0	0	0	0	0	0	0.007	0
七尾市	石崎	100-	住	362	8694	0.006	0.044	0	0	0	0	0	0	0	0	0.015	0
七尾市	崎山	100-	未	364	8679	0.002	0.017	0	0	0	0	0	0	0	0	0.005	0
七尾市	徳田	100-	未	361	8629	0.004	0.038	0	0	0	0	0	0	0	0	0.011	0

(注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出。なお、数値を補正する場合は、昭和53年8月1日付け環大企第287号による。

2. 「98%値評価による日平均値0.06ppmを超えた日数」とは、1年間の日平均値のうち低い方から98%の範囲にあって、かつ、0.06ppmを超えたものの日数である。

環境大気測定局年間測定結果
(3)一酸化窒素及び窒素酸化物

市 町	測定局	令別表 第3の 区 分	用途 地域	一酸化窒素 (NO)					窒素酸化物 (NO+NO2)					
				有効測定 日数	測定時間	年平均値	1時間値 の最高値	年平均値の 年間98%値	有効測定 日数	測定時間	年平均値	1時間値 の最高値	年平均値の 年間98%値	年平均値 NO2/(NO+NO2)
				(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(%)
金沢市	三馬	39-	住	364	8708	0.003	0.181	0.012	364	8704	0.011	0.220	0.028	72.7
金沢市	西南部	39-	住	365	8746	0.007	0.172	0.030	365	8746	0.024	0.225	0.059	69.1
金沢市	小立野	39-	住	363	8676	0.003	0.091	0.008	363	8676	0.013	0.144	0.028	78.0
金沢市	中央	39-	住	364	8677	0.002	0.157	0.011	364	8677	0.015	0.196	0.035	85.4
金沢市	駅西	39-	住	365	8699	0.004	0.193	0.017	365	8699	0.020	0.244	0.047	78.0
金沢市	西部	39-	住	365	8696	0.005	0.144	0.025	365	8695	0.018	0.189	0.052	69.8
金沢市	北部	39-	住	363	8685	0.003	0.232	0.013	363	8685	0.014	0.281	0.031	76.7
白山市	山島	39-	未	361	8639	0.002	0.100	0.009	361	8639	0.011	0.143	0.026	78.5
白山市	松任	39-	住	365	8673	0.004	0.130	0.015	365	8673	0.017	0.191	0.037	79.0
白山市	美川	39-	未	365	8673	0.005	0.167	0.023	365	8672	0.019	0.205	0.047	74.4
内灘町	内灘	100-	住	361	8670	0.004	0.148	0.025	361	8670	0.015	0.196	0.047	71.4
津幡町	津幡	100-	住	362	8623	0.003	0.139	0.015	362	8623	0.014	0.181	0.035	79.1
小松市	小松	100-	準工	364	8709	0.006	0.163	0.023	364	8709	0.019	0.195	0.046	67.6
加賀市	大聖寺	100-	住	291	6945	0.007	0.121	0.022	291	6945	0.021	0.142	0.043	65.3
加賀市	山代	100-	住	361	8643	0.005	0.123	0.016	361	8643	0.017	0.173	0.037	70.7
能美市	根上	100-	住	365	8675	0.003	0.081	0.012	365	8675	0.014	0.120	0.032	77.4
羽咋市	羽咋	100-	商	358	8604	0.002	0.056	0.005	358	8604	0.007	0.095	0.019	76.5
中能登町	鳥屋	100-	未	348	8498	0.001	0.048	0.005	348	8498	0.005	0.076	0.016	82.1
七尾市	七尾	100-	住	361	8651	0.004	0.113	0.015	361	8650	0.011	0.138	0.030	65.2
七尾市	大田	100-	未	360	8620	0.001	0.055	0.005	360	8620	0.005	0.080	0.013	82.5
七尾市	田鶴浜	100-	未	363	8666	0.002	0.050	0.008	363	8666	0.005	0.088	0.017	69.1
七尾市	能登島	100-	未	364	8675	0.000	0.023	0.002	364	8675	0.003	0.031	0.007	86.0
中能登町	鹿島	100-	未	364	8670	0.000	0.019	0.002	364	8670	0.004	0.039	0.009	87.7
七尾市	石崎	100-	住	362	8694	0.003	0.119	0.013	362	8694	0.009	0.154	0.026	65.9
七尾市	崎山	100-	未	364	8679	0.000	0.010	0.001	364	8679	0.003	0.025	0.006	89.5
七尾市	徳田	100-	未	361	8629	0.002	0.086	0.008	361	8629	0.006	0.114	0.019	69.1

(注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出。なお、数値を補正する場合は、昭和53年8月1日付け環大企第287号による。

2. 「98%値評価値による日平均値0.06ppmを超えた日数」とは、1年間の日平均値のうち低い方から98%の範囲にあって、かつ、0.06ppmを超えたものの日数である。

(4)一酸化炭素

市 町	測定局	用途 地域	有効 測定 日数	測定時間	年平均値	8時間値が 20ppmを 超えた回数 とその割合		日平均値が 10ppmを 超えた日数 とその割合		1時間値が 30ppm以上となった ことがある日数 とその割合		1時間値 の最高値	日平均の 2%除外値	日平均値が 10ppmを 超えた日が 2日以上 連続した ことの有無	環境基準の 長期的評価に よる日平均値 が 10ppmを 超えた日数
						(回数)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)				
金沢市	三馬	住	365	8721	0.3	0	0	0	0	0	0	3.3	0.5		0

(注) 「環境基準の長期的評価による日平均値10ppmを超えた日数」とは日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち10ppmを超えた日数である。ただし、日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外当日に入っている日数分については除外しない。

環境大気測定局年間測定結果

(5)光化学オキシダント

市 町	測定局	用途地域	昼間測定日数	昼間測定時間	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数		昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の年平均値
			(日)	(時間)	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)
金沢市	三馬住		365	5442	0.042	119	780	0	0	0.113	0.055
金沢市	西南部住		365	5441	0.026	16	70	0	0	0.086	0.037
金沢市	小立野住		365	5443	0.026	25	133	0	0	0.080	0.037
金沢市	中央住		365	5460	0.032	73	406	0	0	0.102	0.046
金沢市	駅西住		365	5447	0.028	25	115	0	0	0.085	0.038
金沢市	西部住		365	5464	0.038	98	583	0	0	0.109	0.052
金沢市	北部住		365	5461	0.036	82	471	0	0	0.110	0.050
白山市	山島末		365	5447	0.034	58	298	0	0	0.097	0.046
白山市	松任住		365	5427	0.033	52	273	0	0	0.093	0.045
白山市	美川末		365	5422	0.030	27	101	0	0	0.088	0.042
内灘町	内灘住		365	5412	0.034	58	341	0	0	0.094	0.047
津幡町	津幡住		363	5369	0.033	54	309	0	0	0.088	0.046
小松市	小松準工		365	5440	0.038	111	664	0	0	0.117	0.054
加賀市	大聖寺住		294	4364	0.035	72	359	0	0	0.098	0.051
能美市	根上住		365	5373	0.037	71	332	0	0	0.101	0.050
羽咋市	羽咋商		365	5432	0.034	43	253	0	0	0.085	0.044
中能登町	鳥屋末		365	5348	0.036	52	322	0	0	0.089	0.047
七尾市	七尾住		365	5429	0.035	50	326	0	0	0.091	0.047
七尾市	大田末		365	5434	0.042	99	698	0	0	0.115	0.054
七尾市	田鶴浜末		364	5407	0.037	71	503	0	0	0.103	0.050
七尾市	能登島末		365	5445	0.042	88	632	0	0	0.114	0.053
中能登町	鹿島末		365	5446	0.046	124	926	1	1	0.120	0.057

(注) 昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。

(6)浮遊粒子状物質

市 町	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数	測定方法
			(日)	(時間)	(mg/m ³)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(mg/m ³)	(mg/m ³)	(有・無)	(日)	
金沢市	三馬住		353	8585	0.020	0	0	0	0	0.166	0.052		0	線吸収法
金沢市	西南部住		361	8707	0.020	0	0	0	0	0.132	0.045		0	線吸収法
金沢市	小立野住		358	8640	0.017	0	0	0	0	0.136	0.046		0	線吸収法
金沢市	中央住		361	8700	0.020	0	0	0	0	0.153	0.052		0	線吸収法
金沢市	北部住		358	8673	0.021	0	0	0	0	0.154	0.053		0	線吸収法
白山市	山島末		348	8502	0.015	0	0	0	0	0.100	0.041		0	線吸収法
白山市	松任住		352	8585	0.019	0	0	0	0	0.139	0.050		0	線吸収法
白山市	美川末		353	8605	0.020	0	0	0	0	0.182	0.047		0	線吸収法
内灘町	内灘住		349	8558	0.019	1	0.0	0	0	0.212	0.048		0	線吸収法
津幡町	津幡住		353	8601	0.019	1	0.0	0	0	0.241	0.049		0	線吸収法
小松市	小松準工		353	8607	0.019	0	0	0	0	0.125	0.051		0	線吸収法
加賀市	大聖寺住		286	6923	0.020	4	0.1	0	0	0.503	0.053		0	線吸収法
加賀市	山代住		349	8552	0.018	0	0	0	0	0.099	0.044		0	線吸収法
能美市	根上住		353	8609	0.019	1	0.0	0	0	0.311	0.050		0	線吸収法
羽咋市	羽咋商		353	8598	0.018	0	0	0	0	0.102	0.044		0	線吸収法
中能登町	鳥屋末		341	8484	0.019	0	0	0	0	0.110	0.048		0	線吸収法
七尾市	七尾住		351	8553	0.023	0	0	0	0	0.118	0.056		0	線吸収法
七尾市	大田末		353	8595	0.018	0	0	0	0	0.121	0.049		0	線吸収法
七尾市	田鶴浜末		351	8563	0.018	0	0	0	0	0.123	0.046		0	線吸収法
七尾市	能登島末		353	8596	0.016	0	0	0	0	0.187	0.046		0	線吸収法
中能登町	鹿島末		353	8600	0.017	5	0.1	0	0	0.500	0.048		0	線吸収法
七尾市	石崎住		353	8602	0.022	2	0.0	1	0.3	0.276	0.062		0	線吸収法
七尾市	崎山末		353	8604	0.020	0	0	0	0	0.162	0.054		0	線吸収法
七尾市	徳田末		349	8516	0.018	0	0	0	0	0.154	0.045		0	線吸収法

(注) 1. 「環境基準の長期的評価による日平均値0.10mg/m³を超えた日数」とは日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち0.10mg/m³を超えた日数である。ただし、日平均値が0.10mg/m³を超えた日が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外当日に入っている日数については除外しない。

2. 「測定方法」の欄には、光散乱法、圧電天秤法、ベータ線吸収法の別を記入

環境大気測定局年間測定結果

(7)非メタン炭化水素

市 町	測定局	用途 地域	測定時間	年平均値	6～9時 における 年平均値	6～9時 測定日数	6～9時 3時間平均値		6～9時 3時間平均値が 0.20ppmCを超えた 日数とその割合		6～9時 3時間平均値が 0.31ppmCを超えた 日数とその割合		測定方法
							最高値	最低値	(日)	(%)	(日)	(%)	
							(ppmC)	(ppmC)					
(時間)	(ppmC)	(ppmC)	(日)	(ppmC)	(ppmC)	(日)	(%)	(日)	(%)	直接法(直)	差量法(差)		
金沢市	三馬住	住	8558	0.11	0.12	361	0.60	0.02	22	6.1	5	1.4	直
内灘町	内灘住	住	8616	0.09	0.12	363	0.46	0.00	44	12.1	7	1.9	直
七尾市	大田未	未	8645	0.06	0.06	364	0.21	0.01	1	0.3	0	0.0	直

(注) 「測定方式」の欄には直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と記載

(6)メタン及び全炭化水素

市 町	測定局	用途 地域	メタン						全炭化水素						測定方式
			測定時間	年平均値	6～9時 における 年平均値	6～9時 測定日数	6～9時 3時間平均値		測定時間	年平均値	6～9時 における 年平均値	6～9時 測定日数	6～9時 3時間平均値		
							最高値	最低値					最高値	最低値	
							(ppmC)	(ppmC)					(ppmC)	(ppmC)	
(時間)	(ppmC)	(ppmC)	(日)	(ppmC)	(ppmC)	(時間)	(ppmC)	(ppmC)	(日)	(ppmC)	(ppmC)				
金沢市	三馬住	住	8558	1.88	1.89	361	2.11	1.45	8558	1.99	2.01	361	2.55	1.52	直
内灘町	内灘住	住	8617	1.87	1.91	363	2.43	1.70	8616	1.96	2.02	363	2.71	1.70	直
七尾市	大田未	未	8644	1.80	1.80	364	1.99	1.68	8644	1.86	1.87	364	2.15	1.73	直

(注) 「測定方式」の欄には非メタン炭化水素測定機で直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と記載

自動車排出ガス測定局経年変化

(1) 二酸化窒素

市 町	測定局	令別表第3の区分	用途地域	二酸化窒素 (NO ₂)													
				有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.2ppmを超えた時間数とその割合		1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の時間数とその割合		日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数
								(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(%)	(時間)	(%)		
金沢市	(自)武蔵	39-	商	363	8677	0.033	0.099	0	0	0	0	0	0	68	18.7	0.050	0
金沢市	(自)片町	39-	商	364	8683	0.041	0.226	1	0.0	62	0.7	13	3.6	191	52.5	0.063	6
金沢市	(自)藤江	39-	準工	361	8649	0.026	0.076	0	0	0	0	0	0	14	3.9	0.041	0
金沢市	(自)駅前	39-	商	364	8685	0.025	0.111	0	0	1	0.0	0	0	1	0.3	0.037	0

(注) 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(2) 一酸化窒素及び窒素酸化物

市 町	測定局	令別表第3の区分	用途地域	一酸化窒素 (NO)					窒素酸化物 (NO + NO ₂)					
				有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	年平均値の年間98%値	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	年平均値の年間98%値	年平均値NO ₂ /(NO+NO ₂)
金沢市	(自)武蔵	39-	商	363	8675	0.058	0.368	0.098	363	8675	0.091	0.423	0.134	36.2
金沢市	(自)片町	39-	商	364	8683	0.082	0.864	0.143	364	8683	0.123	1.090	0.193	33.3
金沢市	(自)藤江	39-	準工	361	8648	0.018	0.285	0.049	361	8648	0.043	0.340	0.087	59.5
金沢市	(自)駅前	39-	商	364	8685	0.024	0.240	0.053	364	8685	0.049	0.296	0.083	51.5

(注) 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(3) 一酸化炭素

市 町	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	8時間値が20ppmを超えた回数とその割合		日平均値が10ppmを超えた日数とその割合		1時間値が30ppm以上となったことがある日数とその割合		1時間値の最高値	日平均の2%除外値	日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が10ppmを超えた日数
						(回数)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)				
						(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)				
野々市市	(自)野々市	商	363	8691	0.6	0	0	0	0	0	3.9	1.0		0	
小松市	(自)小松	商	355	8511	0.4	0	0	0	0	0	3.6	0.7		0	
金沢市	(自)武蔵	商	362	8683	0.9	0	0	0	0	0	4.5	1.4		0	
金沢市	(自)片町	商	365	8694	1.4	0	0	0	0	0	8.5	2.1		0	
金沢市	(自)藤江	準工	365	8699	0.5	0	0	0	0	0	2.4	0.8		0	
金沢市	(自)駅前	商	365	8693	0.6	0	0	0	0	0	3.1	1.0		0	

(注) 「環境基準の長期的評価による日平均値10ppmを超えた日数」とは日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち10ppmを超えた日数である。ただし、日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外当日に入っている日数分については除外しない。

(4) 浮遊粒子状物質

市 町	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数	測定方法
						(時間)	(%)	(日)	(%)					
						(日)	(時間)	(mg/m ³)	(mg/m ³)					
金沢市	(自)武蔵	商	359	8681	0.024	0	0	0	0	0.200	0.052		0	線吸収法
金沢市	(自)藤江	準工	360	8690	0.023	0	0	0	0	0.125	0.052		0	線吸収法
金沢市	(自)駅前	商	361	8688	0.025	0	0	1	0.3	0.165	0.063		0	線吸収法

(注) 1. 「環境基準の長期的評価による日平均値0.10mg/m³を超えた日数」とは日平均値の高い方から2%の範囲の日の日平均値を除外した後の日平均値のうち0.10mg/m³を超えた日数である。
2. 「測定方法」の欄には、光散乱法、圧電天びん法、ベータ線吸収法の別を記入

(5) 非メタン炭化水素

市 町	測定局	用途地域	測定時間	年平均値	6-9時における年平均値	6-9時測定日数	6-9時3時間平均値		6-9時3時間平均値が0.20ppmCを超えた日数とその割合		6-9時3時間平均値が0.31ppmCを超えた日数とその割合		測定方法
							最高値	最低値	(日)	(%)	(日)	(%)	
							(時間)	(ppmC)	(ppmC)	(ppmC)	(ppmC)	(日)	
金沢市	(自)武蔵	商	8630	0.58	0.49	364	0.94	0.22	364	100.0	332	91.2	直

(注) 「測定方式」の欄には直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と記載

(6) メタン及び全炭化水素

市 町	測定局	用途地域	メタン							全炭化水素					測定方式
			測定時間	年平均値	6-9時における年平均値	6-9時測定日数	6-9時3時間平均値		測定時間	年平均値	6-9時における年平均値	6-9時測定日数	6-9時3時間平均値		
							最高値	最低値					(時間)	(ppmC)	
金沢市	(自)武蔵	商	8630	2.01	2.01	364	2.39	1.69	8630	2.60	2.51	364	3.14	2.10	直

(注) 「測定方式」の欄には非メタン炭化水素測定機で直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と記載

環境大気測定局経年変化
(1)二酸化硫黄(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	三馬	住	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
金沢市	西南部	住	0.005	0.006	0.005	0.005	0.004
金沢市	小立野	住	0.004	0.004	0.004	0.003	0.004
金沢市	中央	住	0.004	0.004	0.002	0.002	0.002
金沢市	駅西部	住	0.006	0.006	0.005	0.004	
金沢市	西部	住	0.004	0.005			
金沢市	北部	住	0.002	0.002	0.001	0.002	0.002
白山市	山島	未	0.003	0.003	0.003	0.001	0.001
白山市	松任	住	0.004	0.004	0.003	0.004	0.004
白山市	美川	未	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006
内灘町	内灘	住	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
津幡町	津幡	住	0.003	0.004	0.003	0.003	0.003
小松市	小松	準工	0.004	0.003	0.004	0.004	0.004
加賀市	大聖寺	住	0.004	0.004	0.004	0.004	0.002
加賀市	山代	住	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004
能美市	根上	住	0.005	0.005	0.005	0.004	0.003
羽咋市	羽咋	商	0.004	0.004	0.004	0.004	0.002
中能登町	鳥屋	未	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
七尾市	七尾	住	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
七尾市	大田	未	0.003	0.001	0.000	0.001	0.001
七尾市	田鶴浜	未	0.003	0.001	0.000	0.001	0.001
七尾市	能登島	未	0.003	0.003	0.001	0.001	0.001
中能登町	鹿島	未	0.003	0.003	0.001	0.001	0.001
七尾市	石崎	住	0.005	0.003	0.002	0.002	0.002
七尾市	崎山	未	0.003	0.003	0.001	0.000	0.001
七尾市	徳田	未	0.003	0.002	0.000	0.001	0.001

(2)一酸化窒素(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	三馬	住	0.003	0.003	0.003	0.004	0.003
金沢市	西南部	住	0.009	0.009	0.008	0.009	0.007
金沢市	小立野	住	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003
金沢市	中央	住	0.005	0.005	0.004	0.004	0.002
金沢市	駅西部	住	0.006	0.004	0.003	0.004	0.004
金沢市	西部	住	0.007	0.003	0.003	0.004	0.005
金沢市	北部	住	0.003	0.003	0.002	0.003	0.003
白山市	山島	未	0.003	0.003	0.003	0.003	0.002
白山市	松任	住	0.004	0.004	0.004	0.005	0.004
白山市	美川	未	0.004	0.003	0.003	0.004	0.005
内灘町	内灘	住	0.008	0.006	0.004	0.005	0.004
津幡町	津幡	住	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
小松市	小松	準工	0.009	0.008	0.007	0.006	0.006
加賀市	大聖寺	住	0.010	0.009	0.009	0.009	0.007
加賀市	山代	住	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005
能美市	根上	住	0.005	0.005	0.006	0.004	0.003
羽咋市	羽咋	商	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002
中能登町	鳥屋	未	0.002	0.003	0.002	0.002	0.001
七尾市	七尾	住	0.006	0.007	0.006	0.006	0.004
七尾市	大田	未	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
七尾市	田鶴浜	未	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
七尾市	能登島	未	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000
中能登町	鹿島	未	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000
七尾市	石崎	住	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
七尾市	崎山	未	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000
七尾市	徳田	未	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002

(注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出
2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

環境大気測定局経年変化
(3) 二酸化窒素(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	三馬	住	0.009	0.009	0.011	0.010	0.008
金沢市	西南部	住	0.017	0.017	0.019	0.019	0.017
金沢市	小立野	住	0.011	0.010	0.010	0.010	0.010
金沢市	中央	住	0.016	0.017	0.017	0.016	0.013
金沢市	駅西	住	0.018	0.016	0.016	0.016	0.016
金沢市	西部	住	0.015	0.013	0.012	0.013	0.012
金沢市	北部	住	0.009	0.010	0.010	0.010	0.010
白山市	山島	未	0.008	0.008	0.009	0.009	0.009
白山市	松任	住	0.014	0.014	0.014	0.015	0.013
白山市	美川	未	0.014	0.013	0.013	0.014	0.014
内灘町	内灘	住	0.012	0.012	0.012	0.012	0.011
津幡町	津幡	住	0.011	0.011	0.011	0.011	0.011
小松市	小松	準工	0.013	0.013	0.015	0.013	0.013
加賀市	大聖寺	住	0.014	0.014	0.014	0.014	0.014
加賀市	山代	住	0.013	0.013	0.013	0.013	0.012
能美市	根上	住	0.012	0.012	0.013	0.012	0.011
羽咋市	羽咋	商	0.006	0.006	0.006	0.007	0.006
中能登町	鳥屋	未	0.005	0.004	0.005	0.005	0.004
七尾市	七尾	住	0.009	0.009	0.009	0.008	0.007
七尾市	大田	未	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
七尾市	田鶴浜	未	0.003	0.003	0.003	0.004	0.004
七尾市	能登島	未	0.002	0.002	0.003	0.003	0.002
中能登町	鹿島	未	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003
七尾市	石崎	住	0.006	0.005	0.006	0.006	0.006
七尾市	崎山	未	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
七尾市	徳田	未	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004

- (注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出
2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(4) 二酸化窒素(日平均値の年間98%値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	日平均値の年間98%値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	三馬	住	0.019	0.019	0.021	0.022	0.018
金沢市	西南部	住	0.032	0.034	0.034	0.036	0.032
金沢市	小立野	住	0.020	0.020	0.018	0.019	0.021
金沢市	中央	住	0.032	0.031	0.032	0.030	0.025
金沢市	駅西	住	0.031	0.029	0.026	0.029	0.029
金沢市	西部	住	0.032	0.027	0.025	0.031	0.029
金沢市	北部	住	0.019	0.019	0.019	0.020	0.020
白山市	山島	未	0.019	0.016	0.019	0.020	0.018
白山市	松任	住	0.028	0.025	0.026	0.030	0.026
白山市	美川	未	0.026	0.023	0.023	0.026	0.026
内灘町	内灘	住	0.027	0.028	0.029	0.029	0.027
津幡町	津幡	住	0.021	0.021	0.022	0.022	0.022
小松市	小松	準工	0.026	0.031	0.029	0.026	0.027
加賀市	大聖寺	住	0.024	0.023	0.025	0.023	0.023
加賀市	山代	住	0.022	0.022	0.022	0.021	0.021
能美市	根上	住	0.024	0.025	0.026	0.023	0.023
羽咋市	羽咋	商	0.014	0.015	0.013	0.015	0.013
中能登町	鳥屋	未	0.013	0.011	0.016	0.014	0.011
七尾市	七尾	住	0.018	0.020	0.020	0.019	0.016
七尾市	大田	未	0.009	0.009	0.008	0.009	0.009
七尾市	田鶴浜	未	0.008	0.007	0.011	0.009	0.010
七尾市	能登島	未	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006
中能登町	鹿島	未	0.009	0.007	0.007	0.007	0.007
七尾市	石崎	住	0.016	0.015	0.016	0.016	0.015
七尾市	崎山	未	0.005	0.004	0.005	0.005	0.005
七尾市	徳田	未	0.010	0.011	0.012	0.011	0.011

- (注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出
2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

環境大気測定局経年変化
(5)窒素酸化物(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	三 馬	住	0.012	0.012	0.014	0.014	0.011
金沢市	西 南 部	住	0.026	0.027	0.027	0.028	0.024
金沢市	小 立 野	住	0.013	0.012	0.011	0.012	0.013
金沢市	中 央	住	0.021	0.021	0.021	0.021	0.015
金沢市	駅 西	住	0.023	0.020	0.019	0.019	0.020
金沢市	西 部	住	0.021	0.016	0.015	0.017	0.018
金沢市	北 部	住	0.012	0.012	0.012	0.013	0.014
白山市	山 島	未	0.012	0.011	0.012	0.012	0.011
白山市	松 任	住	0.018	0.018	0.018	0.020	0.017
白山市	美 川	未	0.017	0.016	0.016	0.018	0.019
内灘町	内 灘	住	0.019	0.018	0.016	0.017	0.015
津幡町	津 幡	住	0.014	0.014	0.014	0.014	0.014
小松市	小 松	準工	0.022	0.021	0.022	0.019	0.019
加賀市	大 聖 寺	住	0.024	0.023	0.023	0.023	0.021
加賀市	山 代	住	0.020	0.020	0.018	0.018	0.017
能美市	根 上	住	0.017	0.017	0.019	0.015	0.014
羽咋市	羽 咋	商	0.009	0.008	0.008	0.009	0.007
中能登町	鳥 屋	未	0.007	0.008	0.007	0.008	0.005
七尾市	七 尾	住	0.015	0.015	0.015	0.015	0.011
七尾市	大 田	未	0.004	0.005	0.005	0.005	0.005
七尾市	田 鶴 浜	未	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
七尾市	能 登 島	未	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
中能登町	鹿 島	未	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004
七尾市	石 崎	住	0.009	0.008	0.009	0.009	0.009
七尾市	崎 山	未	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
七尾市	徳 田	未	0.006	0.006	0.006	0.007	0.006

(注) 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

環境大気測定局経年変化

(6)一酸化炭素(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	三 馬	住	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3

(注) 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(7)光化学オキシダント(昼間の1時間値の年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	昼間の1時間値の年平均値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	三 馬	住	0.034	0.039	0.042	0.039	0.042
金沢市	西 南 部	住	0.029	0.027	0.029	0.030	0.026
金沢市	小 立 野	住	0.031	0.031	0.032	0.029	0.026
金沢市	中 央	住	0.030	0.029	0.034	0.033	0.032
金沢市	駅 西	住	0.030	0.026	0.028	0.028	0.028
金沢市	西 部	住	0.036	0.036	0.037	0.036	0.038
金沢市	北 部	住	0.038	0.035	0.036	0.036	0.036
白山市	山 島	未	0.035	0.036	0.036	0.033	0.034
白山市	松 任	住	0.034	0.035	0.033	0.034	0.033
白山市	美 川	未	0.033	0.032	0.033	0.031	0.030
内灘町	内 灘	住	0.036	0.034	0.036	0.036	0.034
津幡町	津 幡	住	0.033	0.031	0.035	0.033	0.033
小松市	小 松	準工	0.032	0.033	0.031	0.037	0.038
加賀市	大 聖 寺	住	0.030	0.030	0.029	0.032	0.035
能美市	根 上	住	0.032	0.033	0.034	0.036	0.037
羽咋市	羽 咋	商	0.035	0.036	0.037	0.035	0.034
中能登町	鳥 屋	未	0.037	0.037	0.037	0.037	0.036
七尾市	七 尾	住	0.032	0.032	0.034	0.035	0.035
七尾市	大 田	未	0.043	0.041	0.043	0.042	0.042
七尾市	田 鶴 浜	未	0.035	0.036	0.037	0.038	0.037
七尾市	能 登 島	未	0.037	0.041	0.043	0.042	0.042
中能登町	鹿 島	未	0.043	0.042	0.046	0.045	0.046

(注) 昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。

環境大気測定局経年変化
(8)浮遊粒子状物質(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (mg/m3)					測定方式
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
金沢市	三 馬	住	0.023	0.024	0.021	0.020	0.020	線吸収法
金沢市	西 南 部	住	0.030	0.024	0.022	0.019	0.020	線吸収法
金沢市	小 立 野	住	0.023	0.023	0.020	0.018	0.017	線吸収法
金沢市	中 央	住	0.023	0.023	0.021	0.021	0.020	線吸収法
金沢市	駅 西	住	0.026	0.025	0.020	0.019		
金沢市	西 部	住	0.027	0.026				
金沢市	北 部	住	0.026	0.025	0.022	0.022	0.021	線吸収法
白山市	山 島	未	0.023	0.023	0.018	0.016	0.015	線吸収法
白山市	松 任	住	0.024	0.023	0.020	0.020	0.019	線吸収法
白山市	美 川	未	0.026	0.025	0.022	0.020	0.020	線吸収法
内灘町	内 灘	住	0.024	0.023	0.019	0.018	0.019	線吸収法
津幡町	津 幡	住	0.026	0.024	0.020	0.019	0.019	線吸収法
小松市	小 松	準工	0.027	0.025	0.023	0.020	0.019	線吸収法
加賀市	大 聖 寺	住	0.025	0.024	0.021	0.021	0.020	線吸収法
加賀市	山 代	住	0.023	0.023	0.019	0.018	0.018	線吸収法
能美市	根 上	住	0.027	0.023	0.024	0.020	0.019	線吸収法
羽咋市	羽 咋	商	0.024	0.023	0.020	0.020	0.018	線吸収法
中能登町	鳥 屋	未	0.024	0.024	0.021	0.018	0.019	線吸収法
七尾市	七 尾	住	0.023	0.022	0.020	0.022	0.023	線吸収法
七尾市	大 田	未	0.021	0.020	0.017	0.018	0.018	線吸収法
七尾市	田 鶴 浜	未	0.022	0.022	0.020	0.019	0.018	線吸収法
七尾市	能 登 島	未	0.020	0.021	0.017	0.016	0.016	線吸収法
中能登町	鹿 島	未	0.021	0.023	0.019	0.018	0.017	線吸収法
七尾市	石 崎	住	0.025	0.024	0.022	0.022	0.022	線吸収法
七尾市	崎 山	未	0.021	0.020	0.019	0.021	0.020	線吸収法
七尾市	徳 田	未	0.021	0.020	0.019	0.019	0.018	線吸収法

- (注) 1. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。
2. 「測定方式」の欄には、光散乱法、圧電天びん法、ベータ線吸収法の別を記入

環境大気測定局経年変化

(9)非メタン炭化水素(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppmC)					測定方式
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
金沢市	三 馬	住	0.13	0.11	0.12	0.12	0.11	直
内灘町	内 灘	住	0.13	0.10	0.10	0.07	0.09	直
七尾市	大 田	未	0.08	0.06	0.08	0.10	0.06	直

(注) 「測定方式」の欄には直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記

(10)非メタン炭化水素(6～9時における年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	6～9時における年平均値 (ppmC)					測定方式
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
金沢市	三 馬	住	0.13	0.12	0.12	0.13	0.12	直
内灘町	内 灘	住	0.16	0.14	0.12	0.10	0.12	直
七尾市	大 田	未	0.09	0.07	0.09	0.11	0.06	直

(注) 「測定方式」の欄には直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記

(11)メタン(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppmC)					測定方式
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
金沢市	三 馬	住	1.86	1.87	1.87	1.88	1.88	直
内灘町	内 灘	住	1.85	1.84	1.85	1.88	1.87	直
七尾市	大 田	未	1.80	1.78	1.78	1.80	1.80	直

(注) 「測定方式」の欄には直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記

(12)全炭化水素(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppmC)					測定方式
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
金沢市	三 馬	住	1.99	1.98	1.98	2.00	1.99	直
内灘町	内 灘	住	1.98	1.95	1.95	1.95	1.96	直
七尾市	大 田	未	1.88	1.84	1.86	1.90	1.86	直

自動車排出ガス測定局経年変化

(1)一酸化窒素(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	(自)武 蔵	商	0.064	0.065	0.060	0.056	0.058
金沢市	(自)片 町	商	0.064	0.059	0.066	0.077	0.082
金沢市	(自)藤 江	準工	0.020	0.019	0.019	0.024	0.018
金沢市	(自)駅 前	商	0.022	0.022	0.019	0.020	0.024

- (注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出
2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(2)二酸化窒素(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	(自)武 蔵	商	0.036	0.036	0.034	0.032	0.033
金沢市	(自)片 町	商	0.034	0.031	0.034	0.038	0.041
金沢市	(自)藤 江	準工	0.026	0.026	0.030	0.032	0.026
金沢市	(自)駅 前	商	0.026	0.025	0.023	0.023	0.025

- (注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出
2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(3)二酸化窒素(日平均値の年間98%値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	日平均値の年間98%値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	(自)武 蔵	商	0.052	0.055	0.050	0.048	0.050
金沢市	(自)片 町	商	0.052	0.048	0.051	0.060	0.063
金沢市	(自)藤 江	準工	0.041	0.044	0.048	0.050	0.041
金沢市	(自)駅 前	商	0.040	0.036	0.034	0.035	0.037

- (注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出
2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(4)窒素酸化物(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢市	(自)武 蔵	商	0.100	0.102	0.094	0.088	0.091
金沢市	(自)片 町	商	0.098	0.090	0.100	0.115	0.123
金沢市	(自)藤 江	準工	0.046	0.045	0.049	0.056	0.043
金沢市	(自)駅 前	商	0.047	0.047	0.042	0.043	0.049

- (注) 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(5)一酸化炭素(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途 地域	年 平 均 値 (ppm)				
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
野々市町	(自)野々市	商	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6
小松市	(自)小 松	商	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4
金沢市	(自)武 蔵	商	1.5	1.1	0.8	0.8	0.9
金沢市	(自)片 町	商	2.1	1.3	1.6	1.7	1.4
金沢市	(自)藤 江	準工	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
金沢市	(自)駅 前	商	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6

- (注) 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

自動車排出ガス測定局経年変化

(6)浮遊粒子状物質(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途・地域	年 平 均 値 (mg/m3)					測定方式
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
金沢市	(自)武 蔵	商			0.026	0.023	0.024	線吸収法
金沢市	(自)藤 江	準工					0.023	線吸収法
金沢市	(自)駅 前	商	0.030	0.030	0.028	0.027	0.025	線吸収法

- (注) 1. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。
2. 「測定方式」の欄には、光散乱法、圧電びん法、ベータ線吸収法の別を記入

(7)非メタン炭化水素(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途・地域	年 平 均 値 (ppmC)					測定方式
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
金沢市	(自)武 蔵	商	0.50	0.53	0.56	0.55	0.58	直

- (注) 「測定方式」の欄には直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記

(8)非メタン炭化水素(6～9時における年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途・地域	6～9時における年平均値(ppmC)					測定方式
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
金沢市	(自)武 蔵	商	0.41	0.45	0.43	0.48	0.49	直

- (注) 「測定方式」の欄には直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記

(9)メタン(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途・地域	年 平 均 値 (ppmC)					測定方式
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
金沢市	(自)武 蔵	商	1.92	1.93	1.95	1.98	2.01	直

- (注) 「測定方式」の欄には直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記

(10)全炭化水素(年平均値経年変化)

市 町	測定局	用途・地域	年 平 均 値 (ppmC)					測定方式
			平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
金沢市	(自)武 蔵	商	2.41	2.45	2.51	2.53	2.60	直